

家庭・保育所・幼稚園

幼児の教育

第五十五卷 第二號

昭和三十一年四月二十五日 第三種郵便物認可 昭和三十一年二月一日発行
昭和三十一年一月二十五日印刷 本誌の発行所 第五十五卷 第二号 (毎月一回一日発行)
日本図書鉄道特別扱承認雑誌第 八五号

1.1.19
和洋書館



子

日本幼稚園協會

2

トツパンの人形絵本

トツパン独特の絵本です。子供たちのために愛情をこめてつくられた人形、一級の印刷・造本技術。幼ない人たちに童話の夢をそのまま、見ていただける絵本です。

《最新刊》

しらすんぼうし
いっすんぼうし

《既刊》

やん坊にん坊とん坊とおともだち
やん坊にん坊とん坊となまげざる
やん坊にん坊とん坊とあひるのこ
赤ずきんちゃん・じゃつくと豆の木
びーたーと狼・三びきのくま
三びきのこぶたのたんじょう日
ぷーぼんせんせいのおふりかたんけん
ぷーぼんせんせいの海のぼうけん
金のがちよう

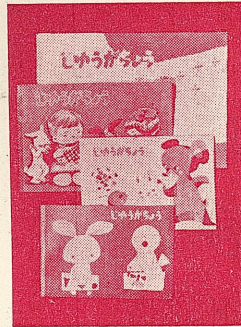
各一〇〇円

東京日本橋茅場町 トツパン

昭和三十一年度新学期用品

- ☆ 保育日誌 (用紙)
- ☆ 出席カード・貼紙 (武井武雄先生考案)
- ☆ せいさくちよう (大・小)
- ☆ じゆうがちよう (特①②・A・B・C)
- ☆ おりがみ (二十色、文部省選定標準色準拠) (特製・並製A四寸・五寸V)
- ☆ まんてんくれよん (十二色・十色・八色)

童画界の重鎮武井武雄先生が一生懸命作って下さったすばらしくおもしろい出席カード、美しく楽しい装幀のせいさくちよう・じゆうがちよう、内容を特に吟味したおりがみ・くれよん、幼児教育になくはならないフレイベル館の新学期用品。

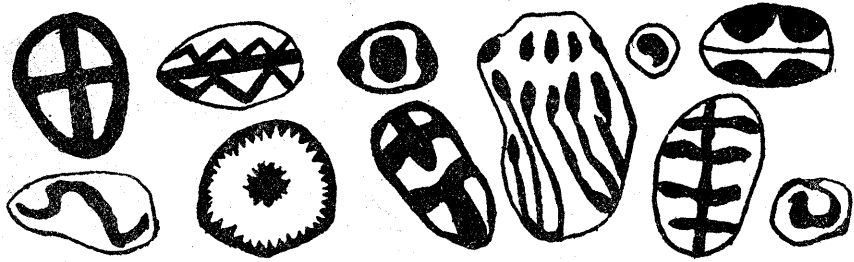


なお、右のほか種々取揃えてございます。お申込みは、至急当社代理店へ！

カタログお送りいたします。

東京都千代田区
神田小川町二の五
株式会社

フレイベル館



幼児の教育目次

第五十五卷 二月号

表紙……………堀文子

巻頭言 学齡初期について……………多田鉄雄(2)

集 保育者養成の諸問題……………坂元彦太郎(6)

幼稚園教師としての教育……………富永正(11)

熊本大学の保育者養成……………大崎サチエ(13)

岡山大学の保育者養成……………坂元彦太郎(15)

短期大学の保育者養成(東洋英和女子短大の場合)……………黒田成子(17)

幼稚園教員養成の現状について……………村山松雄(20)

昭和三十年度全国国立大学教員養成学部教官研究集会について……………津守真(21)

特 ☆沖縄の幼児教育へ☆……………村山貞雄(22)

☆幼児の造形……………林健造(29)

《劇あそび》おひなさま……………堀合文子(35)

北海道の幼稚園界……………重野孝三(38)

研究会より 幼児の運動能力調査……………安藤寿美江(42)

五才児における言語発達とその指導について……………角尾和子(47)

★ドイツ便り★……………平井信義(50)

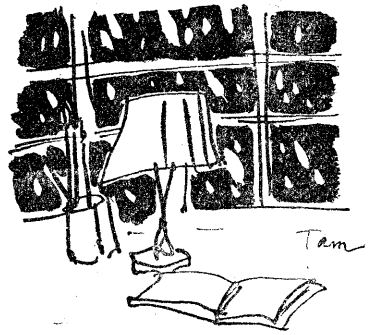
幼児の栄養……………武藤静子(52)

冬の室外保育……………長谷川増吉(56)

フレイベル以後の幼稚園へ……………津守真(59)

▽表紙について△……………堀文子(51)

編集主幹 及川ふみ 編集主任 津守真
 協力委員 牛島義友 齋藤文雄 多田鉄雄 波多野完治 山下俊郎 (五十首順)



学齡始期について

多田鉄雄

本誌の昨年十月号に長田先生が「ソ連の就学前の教育をみて」を書かれているが、あれを読んで特に感じたので学齡始期についてのべて見よう。長田先生は私たちに他山の石としてあれを紹介されたのだと思われるので、その良い点を殊更に浮彫りされたものと考ええる。例えばソ連と比較して、日本には保育所と幼稚園が並行していて貧富の差により収容施設の異なる非を指摘されたとき当然のことながら尊重さるべき提言である。しかし素直に読み下してしまい切れぬ点がいくつあったのは私ひとりであつたらうか。先づ「日本の幼稚園が午前十時から正午まで——こう断定することの当否は別として——だから子供は家を出たかと思うと、もう直ぐ帰って行く。教育内容の如何に貧弱なことか」と云われる。もとよりここで教育とは極めて広い意味で考えられていることは理解出来

るが、時間が短いこと、即、教育内容の貧弱とはどんなものであろう。又「日本の幼稚園は『教える教育』をすることによって非教育的な幼稚園であるのに——私どもはそう思わないが、それでもこの批難に対しては或る点ではなほ謙虚に反省すべきであろう——ソ連の幼稚園は『教えぬ教育』をすることによって教育的な幼稚園である」と云われている。たしかに長田先生は実際を見て来られてこのように云われているのであろうが、私の手許にはソ連の「就学前教育学教科書」——これはレニングラード就学前教育教員養成所講師カルボウスカヤ女史などと共にソロキナ女史がソ連の幼稚園教員教育の教科書としてモスコウで一九五一年に著わし、広く用いられ、更に一九五五年に東独でも使用するため東独政府機関によって翻刻されたものである。その内容はソ連国家の定めた「教育者の手引（日本の指導要領

のようなもの」に則つて、極めて具体的に就学前教育の目標・方法を叙述したもの——があるが、この本を読むと大体において私も幼児教育者が現在もつとも正しいと考えていると同様な教育精神で、同様に教育方法が説かれておる。それどころか、言語の教育のところでは「市民社会体制下の教育学と心理学は言語発達の能力が子供の天性のみに存しており、子供の発達に伴つて現われて来るものであり、つねに自己発達の法則に依存すると主張するが、この誤つた理論によれば社会的環境と教育とは言語の発達に何等影響を与え得ないわけである。ソヴィエト教育の理論と実際とはこの主張を否定し、確乎として言語が社会的交渉において、教育において、授業において形成されるものであることを証示する（同書二五三頁）」と述べて極めて積極的であるところすら見られる。

しかし私がここで問題にしたいのは学齢始期のことである。長田先生も述べられているようにソ連では満七歳からが初等学校であるから、若し日本のこの年齢までの子供がソ連の子供よりは一年位早く発達すると云うことでもなければ、年齢の上から見て日本の小学校一学年はソ連の幼稚園の最年長級に当る。ここに一九五五年版のソヴィエト年鑑から数字を拾つて見よう。

教育関係統計表（同書二九四頁）

一、常設託児所収容者数

一九四〇年 八五九、〇〇〇
 一九五〇年 一、二五一、〇〇〇
 （注）一九五〇年の収容者数は第四次五ヶ年計画による予定数字。なほ第五次計画では約二〇％増加の予定。

二、幼稚園収容者数

一九四三年 一、一八一、二五五
 一九五〇年 二、二六〇、〇〇〇

（注）一九五〇年の収容者数は第四次五ヶ年計画による予定数字。なほ第五次計画では五ヶ年間に約四〇％増加の予定。

三、初等中等学校生徒数（小学校と中学校とを併せた十学年学校

一九三九年 三一、五一七、三七五
 一九五〇年 三一、八〇〇、〇〇〇

これによると、先づ幼稚園は第五次計画の最終年度たる一九五五年までに予定通りの増加を見て約三、一六四、〇〇〇人になる計算であるが、——して見ると長田先生の「戦後五ヶ年計画で五百万になった」と云うのは託児所幼児数、農繁期幼稚園児数など合計したものであろうか——現在の初等中等学校への就学義務が十年（大都市など）乃至七年であるからして、仮りに凡ての地方の該当年齢児が十年の教育を受けているとすれば一ヶ学年在籍者数は大約十分の一の三、一八〇、〇〇〇人、仮りに凡てのものが七年のみの教育を受けているとすれば七分

の四、五四〇、〇〇〇人と推定されるので、前者によれば現在のソ連の幼稚園はもし満六歳の最年長幼児が優先的に收容されているものとすれば、それだけで殆んど現員数を独占してしまうわけだし、後者によれば満六歳の幼児全部の三分の二しか收容出来ないことになるわけで、——実際はこの兩者の間であらうが、して見ると学校とか幼稚園とか云うことを別にして考えれば、日本における満三歳から五歳までの幼児と、ソ連における当該年齢児といづれがより多く教育施設に收容されているかと云う点においてむしろ長田先生の所説は逆になるのである。その上に日本には幼稚園年齢児をほぼ同数ほど收容している保育所もある。以上の推論はソ連においては一部分であれ託児所幼稚園の施設が普及しているところでは幼児は凡て託児所から幼稚園に進み、その殆んどは幼児は満三歳から六歳までを幼稚園で過ごす云うのであれば話は別であるが、すくなくともこの点に關し「就学前教育学教科書」は「学校と幼稚園の連絡」の章で「幼児が三年間も幼稚園に在るならば次第に学校へ移行の準備が出来るので、そこには困難な問題は起らない。しかし実際には大概の場合が、幼児は満五歳になって、或は全く六歳になって初めて幼稚園に入園している実情である（同書三三九頁）」とあることから見て問題にならないであらう。

このことは就学前教育を考察する場合にはつねに学齡始期をも同時に問題にしなければならぬと共に、ともかくもソ連が

満七歳を学齡始期にしていることにはどんな意義があるかを考へるべきことを教えている。

もとより精神年齢と生育年齢は一致するものでなく、同一の生育年齢でも精神・身体の発達程度は子供によって随分ちがっていることは云うまでもないが、それでも発達速度の極めて大きいこの年齢期の六ヶ月とか一年と云うものは非常に重要な意義をもつものであって、それ故に遅生れ児と早生れ児の比較研究などが一方において進められて来たわけであるし、大正年代には就学始期を四月と十月の二期に分けて子供の発達に依じてそのいづれかに随意入学させる仕組さえ試みられたわけであり、学齡始期を満五才にするか、六才にするか、七才にするかは教育的に大きな問題なのである。

そもそも学齡始期は一六四二年にドイツのゴータ公国に就学義務制が定められて「満五才を以て就学の始期」としたのに始まることされており、それが次第に他の国々も就学義務制を実施するようになって満六才をとるものが多くなって来たのであるが、現在でもイギリスのように満五才からのところもあれば、ソ連とかアメリカの一部のように満七才からのところもあってそこには別段に明確な科学的根拠はないようである。例えばゴータ公国の頃には宗教教育も重要な要素であったから、早くから祈りを教え込む意図もあつたらうし、一般には通常の子供がひとりて通学出来ること、身体的にも精神的にも学習能力が具わ

って来ることが大体の目安とされたにすぎなかったと云える。

曾って昭和十年代に学齡七才の提唱が契機となって雑誌「教育」が学齡特集号を出したが、そこに表明された諸説を要約すると次のようなものであった。

1 七才の提唱 山下徳治氏

イ、小一児童には病氣欠席が比較的多い。

ロ、学科教授のためには児童の一定の抽象能力の発達を、少くともそれを発達せしめ得る素地が準備されていることを要す。小一児童に之を要求するのは精神発達段階から見て未だ無理である。小二から算術を始めた方が進歩の著しかつた成城小学校の実験例がある。

2 七才説に賛成 佐々木秀一氏

イ、現行の教育内容を児童に与えるためには児童の自然的発達と照合して七才始期が頗る有効である。

ロ、現行の一・二年の教材は七才の一ヶ年で楽に学ばせ得る。

3 五才にすべし 城戸幡太郎氏

イ、義務年限を下へ延長することによって教育的社会政策を教育政策中に採入れるべきである。

4 学齡始期を早めよ 倉橋惣三氏

イ、小学校就学前に教育がないかの如くに考えるのは誤りであり、この時期も教育にとって大切な時期である。現在の小一を幼稚園と併せて之を義務制とし、小二から別の教育の

始期とすればよい。

すでに右の諸説からも容易に汲みとれるように、学齡始期の問題は教育は学校から始まると云う前提でいつからその教育を始めるかと云うことではなくて、第一にいつから凡ての子供に施設教育を始めるかと云うこと、第二にその場合に学校教育と就学前教育の境をどこに引くかということであり、現在までの幼児研究、就学前教育研究は第一に対し少くとも満六才からではおそいと云う明白な解答を出しているのであり、問題はいかにして幼児の通学乃至通園を可能ならしめるか、いかにして凡ての幼児の収容を可能ならしめるかの方法にあると云える。第二に対しても現在の低学年教育方法研究がすでにある程度の解答を与えていることである。

このように考えて来ると初めは恐らく他の要因から制定された七才の学齡始期をあらためて教育的見地から検討すべきであり、その点でこそソ連の制度も注目しに値するはずである。学校教育法によって幼稚園は一応のところ学校体系の一部を構成するようになったが、就学前教育の今後を考えると、幼稚園の義務制を思うとき、更に小学校の今後の在り方を思うとき、学齡始期が現在においていかなる意味で存在し、その現行制度が就学前教育をも含めて初等教育に良い点、悪い点をあげていかなる作用を及ぼしているかが鋭く検討されねばならぬのではないかと考えられるのである。

保育者養成の諸問題

特集 集 ノ 1 ↓

坂 元 彦 太 郎



ら、わが国の現在がそれに近くあることを余儀なくさせられているし、人と時によっては天性の天使をうることも大いにありうる。しかし、一般的にいつて、教師の養成がそれに止まっていいていいわけではない。

幼稚園をこの世の樂園にたとえるならわしに従うと、その教師養成を論ずることは、樂園に咲くとりどりの花の世話をする天使たちの育成をあげつらうことになるであろう。事実、そうした天使にもくらべられる、理想的な幼稚園教師像をかかげて、それを実現しようとしている向がないでもない。しかし、幼稚園の教師としてののぞましい性質をあげることはやさしいが、それを養成する具体的な方法に具現することはそうやさしいことではない。

一方、幼稚園の先生には、中等教育を終えたばかりの少女に、少しばかり徒弟のような修業をさせれば十分であると、本気に考えている向もあるようである。いろいろな事情か

したがって、わが国の教職員免許法で、幼稚園教諭の普通免許状をうるには、正式には四ヶ年、少くとも二ヶ年の大学もしくはそれに準ずる施設において教育を受けなければならぬ、とされているのは、わが国の現状としては、高からず低からず、先ず適当なところといわねばならないであろう。にもかかわらず、事実是一般の免許状をうる大学卒業生はまことにわずかであり、せいぜいよくて二級の普通免許状、大部分はまだ一ヶ年課程で旧免許法による仮免許状に相当する資格しかえられない人々であつて、折角の昭和二十九年の免

許法改正による前進も行きなやみの形なのである。それでいて、聞くところによると、幼稚園教員養成の短期大学や、既存の短大に保育科や初等教育科を設置しようとする認可申請がブーム見たいに殺到しているという。まことに不可思議な時勢であるともいえる。

二

わが国に現存している、幼稚園教諭養成の機関にはいろいろあるが、大きく二つに分けることができよう。一つは、いわば幼稚園教諭を養成するためにのみ、設立されている短期大学（例外的に普通の女子大学）もしくはそれに準ずる施設であり、これが現在での主な教諭の供給源である。これがまた、さらに二分できる。一は私立で、あまり豊かな財政でないものや、他からの支援があつて収支つぐなわなくてもすむようなものが多い。この種のものが、さらにぞくぞくと設置されようとしているのである。専門の養成機関のこの第二の部類には、府県立などの臨時的な幼稚園教員養成所があつて、それぞれの地方でその役割を果している。

わが国の、幼稚園教諭養成に関しては、この部類、すなわち各都道府県にある国立大学の教員養成学部（学芸大学の場合もある）のことは見逃してはならない。ここでは、主として義務教育学校の教師を養成しているのであるが、いわば副

産物として幼稚園教諭をも養成できるのである。現在では、まだこのことに努力している大学はそう多くはないが、次第に大部分の大学がこのことに目醒め、近き将来には質量ともに圧倒的な幼稚園教諭有資格者をおくり出す形勢にある。

筆者は、幸か不幸か、この両種の機関に同時に関係しているので、いつもその両者を比較しながら、幼稚園教諭養成のことを考えているのであるが、以下、私見の一端を述べて見よう。

三

幼稚園教諭養成に専らあたる施設が、その目的を最も容易に達成しやすい、のぞましい養成機関であることは、何人も異論のない所であり、それらが一層充実し発達してその職分を果してくれることをこいねがわないものはない。ところが、この種の機関にも実際には幾つかの難点があるように思う。

ぜい沢と思われるほどの講師陣や設備をそろえているところも例外的にあるが、一般には、この種のものには規模が小さくて最低の施設と教授陣で満足しうる外ないのである。学生も、こじんまりとまとまって、焦点のはっきりした勉強ができるが、教師としての前提の条件ともいふべき、一般的な教養や、ひろく深い識見などを養うことに不十分なものがありはしないか、をおそれる。

免許法やその施行規則で要決している単位を修得させるの

はいとやさしいことであろうが、その単位の出し方にも問題がある。一例をあげれば、教科専門科目で履修しなければならぬものと、一般教育の単位とをどういふ関連において履修させるか。良心的に工夫すれば、それらを再編成して人格の形成に教師としての教養に一層役立たせるように仕組むことができるはずである。また、教科専門科目と教職専門のうちの「保育内容の研究」とをどういふ位置において履修させるか。安易に「まかしてしまふ意味ではなしに、良心的に両者を解きまごして、専門的な教養としてもまた実際の保育の必要にも一層効果が高まるような仕組ができるのではないか。

さらに、そういう計画ができたとしても、さてそれを受持つ教師に、それを果すだけの人をうることができるであろうか。「保育内容の研究」など、それぞれの領域に、経験と学理とをかねそなえた、大学の講義としてはつかしくないものができる人が容易にえられるであろうか。

四

国立の教員養成の学部や大学による、幼稚園教員の養成の実状に目を転じて見よう。原則的にいって、小学校教諭の養成のかたわら、幼稚園教諭も養成できるようになっているが、付属幼稚園をもっている国立大学が三十五、「お茶の水、奈良女子を含む）もあり、幼稚園教員養成課程の認定を文部

省から受けているのが約四十校ある。なお十校足らずがその認定を受けていないのが不可解なことである。認定を受けている大学でも、現実には昭和二十九年年度の卒業生修了生が幼稚園教諭の免許状を三十名以上受けているのは、大阪学芸を筆頭に神戸、岐阜、三重、香川、島根、京都学芸、大分、岡山ぐらゐのものである。(お茶の水、奈良女子における臨時養成課程、東京学芸における幼稚園教諭養成課程は、いわば第一種の専門の養成機関であつて、ここでの論の外にある。)端的にいえば、現教職員免許法は、小学校教員養成と一体的に幼稚園教員養成がやれるように、仕組んであるのが、その特徴の一つである。精細に調べて見ると、教科専門に音楽、図画工作、体育をそれぞれ四単位以上含んでおりさえすれば両免許状をとるために全く共通の科目でなく、保育内容十二単位のうち半数まで小学校教材研究十六単位のうちから兼用してよく、教育実習も両者を区別しないので、結局、「保育内容の研究」六単位だけを余分にとれば、小学校ならびに幼稚園の一般免許状がもらえるように、なっている。それにもかかわらず、国立の大学での幼稚園教員養成が前述のように低調であるわけは、結局、幼稚園教育に対する理解とその教員養成のための熱意を欠いている大学が多いということに外ならない。あるいは、免許法がこうなっているという事実さえ気づいてないではないかとさえ、疑われる

のである。しかし、昨秋、岡山大学で行われた、国立大学教員養成学部教官の研究集会（幼稚園の部）に参加した各位は、十分な理解と熱意をもって、それぞれの大学の事情に適したやり方で幼稚園教諭のための単位を出すことに努力されるであろうから、遠からず、全国的に各国立大学での幼稚園教員養成の気運が活ばつになるであろう。

わずか六単位の「保育内容の研究」を加えることによつて、小学校教員養成の途上に幼稚園教諭が生れうるということとは、この制度を悪用して単に形式的に単位をそろえるにとどまつたなら、幼稚園教諭の素質を低下させると、大いに心配しておられる人々がある。たしかに、そんなことで甘んじてはならないのであつて、その六単位を良心的に充実させる上に、幼児教育者に必要な単位、例えば幼児教育原理、幼児心理等を履修させ、さらに教育実習においても幼稚園を経験させるよう、万全の努力がはらわれなければならない。

しかし、半面、見おとしてならないことは、小学校教員養成のための全単位の上にこれらが加わるのである。六単位の保育内容の研究を十六単位の初等教材研究の上に加えるのである。これらが真に、優秀な初等教育者を養うに足りる良心的なものであるならば、かえつてこの養成の仕方が現在のわが国では、非常に優れたそして最も普及しうる幼稚園教諭養成の方法である、といつても過言ではない。少くとも、普通の地

方においては、最上の教員養成機関である所の大学がその氣になつて努力しさえすれば、第一種と私がいう養成機関に匹敵するような優れた教諭をつくることができるし、むしろ異色のある実力者を多数におくり出すことができるのである。

しかも、このことが遂に小学校教員養成を充実させる結果をうむことができるのであつて、その意味からでも、各教員養成学部は小学校の低学年を含む幼年期の教育に関心をもつ必要がある、とあえて私は主張するのである。

この種の有資格者は必ずしも直ちに園に就職しない者が多いであろう。しかしこの有資格者を各方面におくり出すことによつて、厚い支持層をつくることができ、将来の園長に、れっきとした幼稚園教諭有資格者の男子を迎えるチャンスもできてくる。序であるが男子の教諭を採用する問題も、養成の際における男女共学の利点のことも、十分考えらるべきであることを、指摘だけしておこう。

五

わが国の現状では、私のいう第一種の幼稚園教諭養成専門の機関も、第二種の日本のどの土地にもある教員養成学部を通じての養成も、ともにそれぞれの存在の理由をもつ——と私は述べてきたのである。むしろ、その双方がそれぞれのおちいりやすい欠陥を克服して、その長所を發揮すべきであ

る、と説いてきた。

しかし、この双方に共通の、いくつかの問題が未解決のままになっている。例えば、「保育内容の研究」の十二単位、もしくははその半分を、実際どういう科目の講義に分割して実施したらいいか、という点にまだ全く研究が及んでいないといっている。幼稚園教育要領に示される六領域にそれぞれ二単位か一単位を分けてやればいように見えるが、さて実際にその教育内容なり方法なりを考えると、これの担任できる教官がかんたんにえられるべくもない。逆に、大学の講座の組織にしたがって、これを分担すれば、一応かんたんに片付くが、それが幼児の教育にふさわしい内容をこなしているか、疑わしいものである。昨夜の研究集会で、この前人未踏の問題に一応手をつけて、保育内容の研究のあるべき方向が示されたのはまことに喜ぶべきことであった。その際、社会や健康のような、いわば幼児教育の基礎的な部分に保育内容の研究においても力をいれるべきだという論と、むしろこの際は絵画製作や音楽リズムなどの実技的なものに重点をおくべきだとの論が対立したのであるが、一般的にいって、私のいう第一種の養成では常に識見や教養をひろくすることに意を用いて技術の末や感傷におほれないように努力するのが大切であり、第二種の場合は、むしろそういう面に強くかたよっているきらいがあるのが普通であるから、むしろ

絵画製作や音楽リズムなどの実際の修練を重んずるのがぞましいというのが私の考え方である。

また、教育実習をどう指導したらいいか、ということも、すでに長い実施の経験があるくせに、いわば従弟的な練習を重ねるか、単なる見よう見まねの日を送るだけの場合が多い。もっと能率的にしかも有効にやる方法が共同研究の対象になってもいいのではないか。ことに第二種に養成の場合には、小学校における実習とのつながりや比重が相当な問題なのであって、今後の重要な研究課題にあげることができる。

さらにさかのぼって、一般教育に関する科目や専門教育に関する科目の内容や構造のことも決してかんたんな問題ではない。ことに体育、図画工作、音楽などの専門の科目の内容にいたっては幼児教育を指向する側面としてどういうものか、如何にとりあげるかが真剣に研究されねばならないであろう。

以上、私は主として、現在の日本の幼稚園教員養成の問題を、その内側からとらえてきた。外側にある、非常に重要な問題として、経費保管の問題があり、教諭の待遇の問題があり、就職の問題がある。このことが、直接間接に養成のあり方に影響をあたえるものである点だけをつけ加えておこう。また、諸外国の養成の方法も参考としながら、最低の基準である免許法の改善への研究をも進めることも、大きな課題の one であろう。

幼稚園教師としての教育

富永正

幼稚園教師といえ、美と芸術と優雅さが強調された可愛らしい花園のようところで、無邪気な幼児たちと楽しく遊んで過ごす仕事であつて、子供好きの人なら、いわゆる良家のお嬢さんにも容易にできることのように考えられてきた。しかし、今日の幼稚園の教師は、高い教養と特殊の専門的の知識とを必要とする重要な職業であると考えられるようになった。幼児の研究が進歩し、幼児期の重要性が認められるとともに、幼児教育に携さわる教師の地位はまだ十分に開拓されていない独創的な余地のある新しい分野として他の学校の教師たちに勝るとも劣らない重要なものであることが認められている。

歌や遊戯や絵画が上手であることが重要な資格であると考えられていたが、今日は、これらの創造的な表現活動を指導することの重要性が、新しく認められると同時に、さらに、それらの才能にもま

して、幼児の多方面の活動を通して幼児のいろいろの欲望や必要を洞察したり、幼児の個性を全面的に理解することのできる確実な教養と、それぞれの必要に応じて、適切な指導を与えることのできる専門的な訓練とが重要視されるのである。

音楽は、幼稚園教育にとって、きわめて重要なものであるが、今日の幼稚園の教師は、自ら優秀な音楽の才能の持主であるに越したことはないが、レコード、ラジオ、テープレコーダ等を十分に利用することによって音楽的才能の不足を補うことができる。問題はむしろ、街にはらんしているラジオの歌声やレコードの音楽に対して何を選ぶか、いかなる歌や音楽を使用するかということである。幼児の必要性を理解し、それに適切な音楽を選択し、使用する能力正しい価値判断のできる鑑賞眼と音楽を活用することのできる高い教養とが必要なのである。

同様に、幼稚園の教師は、必ずしも優秀な画家であつたり、彫刻家であるに及ばない。しかし、芸術に対する深い理解を持つ人であり、幼児のそうした創造的な表現活動に対して適切な指導のできることと、その行動や作品から、幼児の個性を発見したり、その内面的な世界を察知したりすることができることが必要なのである。

これらは単に、音楽や絵画の技能的の訓練のみでは成就し得られないものであつて、教師自身の一般教育の水準を高めるとともに、幼児教育に対する専門的研究を深くしなければならぬ。

今日の幼稚園の教師は、幼児研究の十分な理解を持っていないけれどもならない。乳幼児期の成長発達過程とその各段階における特徴とその必要について、家庭生活における親子の關係等について、家

庭を離れて、はじめて幼稚園という新しい環境に移され、新しい教師や友だちと接触したこと、新しい集団生活の経験等によってそこに何が起りつつあるかを十分に知っていなければならぬ。幼児期は人格形成の重要な時期であり、各種の能力の発達のリデインスの形成される時期でもある。この時期にいかなる経験を持ち、いかなる生活を過すかによって、その幼児の個性は変容し、その生涯に大きい影響を及すこととならう。

このような重大な責任を果すために、幼稚園の教師の資格としては、教育に対する十分な理解とその指導の技術等に熟達していることが期待されるが、そのためには、幼児教育の特殊性として心理学的の知識がきわめて重要なのである。幼児の生活やその成長発達の特徴を十分に理解するためには、発達心理学、教育心理学、精神衛生等について知っていなければならない。

昭和二十九年の免許法の改正によって、幼稚園教諭の免許状取得の単位は、二級では、専門八単位、教職一八単位ということになりその内容は、原理二、心理二、保育内容八、実習四、選択二ということになっている。これはもちろん最低を示しているわけであるが免許法の規定であるゆえに、これだけで幼稚園教諭の資格が与えられることになる。しかし、幼児教育の重要性を思い、よい教師の養成を考えるならば、これではいかにも不十分であることを認めるのが一般の意見であらう。

わが国の経済的、社会的の状況から、そのまま比較することは無理ではあるが、アメリカの主な州の幼児教育の教師養成の資格条件としては、幼児教育の準備として承認された大学の四年課程を卒業

し、バッチエラーの学位を持っていること、あるいは大学を卒業して、一年以上、さらに専門的の訓練を受けたものであることが規定されている。わが国の現状としては、たとえ二年課程であっても、幼児教育に専心する優秀な教師を養成することができるようその教育課程の編成を工夫することが肝要であらう。

教職科目としては、既に述べたように、原理と心理の領域において充実を計ること、保育内容の研究と教育実習とが強化される必要があること、専門科目においては、幼児教育に必要な基本的な原理と技能との教科が配置されること、一般教育においては、教師としての広い教養を与えるため、各分野にわたる教科が適当に選択されることを望ましい。

△新刊おしらせ▽

お茶の水女子大学附属幼稚園
幼児教育研究会 編

幼児の教育内容とその指導

A 五上製
二三〇頁
定価三三〇円
下二四円

【内容】 幼児の教育内容を扱うにあたって、健康・運動（一）、健康安全 二、健康習慣 三、運動 四、休息）社会（一）、独立生活 二、友だち遊び 三、集団生活 四、問題解決 五（社会生活） 自然 言語（一、会話 二、お話・紙芝居 三）話し合い・劇遊び 四、絵本・文字）音楽リズム（一、歌 二）リズム 三、楽器 四、鑑賞） 絵画製作

株式会社 フレーベル館

熊本大学の保育者養成

本大学に於て、主として教員養成を目的とする学部は、教育学部である。此の学部では義務教育に関与する教員、即ち小学校、中学校の教員養成を主眼としているが、尚此外に高等学校や幼稚園の教員資格も取得出来るよ

うな組織になっている。

四年課程と二年課程

教育学部には、四ヶ年の課程と二ヶ年の課程の二コースがある。此の両コースと教員資格取得の關係についてのべてみよう。四年課程にすすみ、法規に定められた所定の単位を修得して卒業すれば、中学校、小学校又は、幼稚園の一級免許が取得出来るし、又専攻した当該学科についての高等学校の二級免も取れる様になっている。

二年課程の修了者は、所定の単位を修得すれば、中学校、小学校又は幼稚園の二級免及び高等学校の臨免がとれる仕組になっている。

以上の様に、進学するコースによって、教員資格の一級及び二級が自ら分れている。尚教員資格を得るために、大学で修得すべき学科や単位数等については、教員免許法に規定せられているが、此処では、その説明は、省略する。

幼稚園の教員となるには 本学部には、

幼稚園の教員養成のための専門のコースは設けられていない。従って、幼稚園の教員を志願するものは、次の様な道を選ばねばならな

い。幼稚園の一級免の資格をとるためには、四年課程に進学して、幼稚園を主専攻とし、小学校を副専攻として、幼稚園及び小学校の一級免をとるか、又は、小学校を主専攻とし、幼稚園を副専攻として、小、及び幼、の一級免をとるかしなければならない。二級免の資格をとるには、同様の仕方、二年課程に進学すればよい。つまり、小学校コースを選び、必ず小学校の教員資格を兼ねて幼稚園の教員資格をとらねばならないようになっている。(註、主専、副専とは修得する単位数や教育実習の期間等により区別される)

入学について 教育学部に入学希望するものは、志望のコース(四年課程又は二年課程)及び、専攻のコース(中学校コース又は小学校コース)を予め決めて、志願しなければならぬ。幼稚園の教員志願の者は、当然小学校コースをえらばねばならない。入学試験は、定められた国立大学入学試験期日に実施されるが、本大学では各学部一斉に行われる。

教育奨学資金の特典 教育学部の学生には、一般の奨学金とは別個に、教育奨学資金の特典がある。人物並びに学業成績優秀にし

て、且経済的条件に恵まれない学生に、詮考の上、二ヶ年間支給される。之は義務教育にたずさわらんとするものに与えられる恩典であるので、高等学校、及び幼稚園に就職した場合は、分割的に金額を返還しなければならぬ。

通信教育制度

教員養成を目的とする大

学又は、学部には、文部省の規定による通信教育の制度が設けられている。之は、主として、現職教員のための再教育制度といつてよい。本学部に於ても此の制度をもち、受講者

には、必要な所定の学科を修得すれば、教員資格二級のもの、一級に、臨免、又は仮免のもの二級にと、それぞれ昇格する道が拓かれている。此の通信教育による外に、更に現職教員のために、単位修得試験の制度がある。年一回施行されるのであるが、此の方法によつても、単位の修得が出来るのであつて、所定の単位数が揃えば、資格免許の切換が出来る。

本学部卒業生の就職状況

此処では、中学校及小学校に就職したものであるが、省略し幼稚園関係のみについてべることにする。

幼稚園の教員免許を取得して卒業したものは、昭和二十七年以降僅か十一名にすぎない。大部分の学生は、小、中の免許を取得する傾向にある。幼稚園の教員資格者の就職の状況は、十一名の中、公立幼稚園への就職者四名、残りの七名は、それぞれ小学校又は、中学校に就職している。

学部卒業生にして幼稚園教員資格保持者が何故幼稚園に就職することが振わないかその原因を検討してみよう。

その理由として待遇の問題をあげねばならぬ。大学の新卒者を、義務教育の教員と同等の待遇で採用してくれるのは、本県の場合、熊本市内の市立幼稚園のみである。他はうまくいっていいようである。私立には、財政上、この様な待遇はのぞめない。従つて新卒業生の幼稚園就職希望者は、市内の僅か七つの公立幼稚園に限定されることになりかねない。折角幼稚園の教員を目指して養成しても、就職の条件で、頓坐を来すことになる

実状である。幼稚園のよい教師を養成して貰いたいという地元の要望とその待遇とがどうも、つたりいかない。同級生が小学校に高い俸給で就職するのには、幼稚園にいったがため

に、低い待遇で我慢しなければならぬとなれば、小学校へ就職したくなるのも無理からぬことだと思ふ。此点、幼稚園と、義務教育の両方の教員資格が取得出来る国立大学の卒業生と、幼稚園の教員資格のみ与える大学の卒業生との差異があると思ふ。

更に、幼稚園の側から云わせれば、若い新進気鋭の新卒の教員を採用したくとも、待遇の点で敬遠しなければならぬことになる。何とか、此の両者の希望が容れられるような

打開策はないものだろうか。
以上簡単に熊本大学教育学部の教員養成の実態特に幼稚園の教師養成を重点的に紹介した。

(熊本大学附属幼稚園 大崎サチエ記)

× × × ×

× × ×

岡山大学の保育者養成

一

入学最初のオリエンテーションのときに、初等教育の尊とさと面白さを説くことと、幼稚園教諭の免許状がとれることを、私は強調することを忘れないことにしている。大多数の新入生は、はじめはあっけにとられているが、こちらが馬鹿げてるほど大真面目であることが分つてくると、次第に初等教育に、

ずかしくない一番適切なやり方で幼稚園教諭養成をやっているわけではない。むしろ、ほとんど最低の必要条件をみたすに足るだけのことが辛うじてそろえてあるに過ぎない。こういうやり方でも、幼稚園教員養成ができる、という見本を、まだ手をつけない国立大学に示すだけのねうちしかないといつてもいいのである。

二

ついに幼児の教育にも興味をもつようになる。現在、私の「幼児の教育」の講義には、百名をはるかに越える学生が押しかけてきている。

幼児の教育に直接関係のある講義として、先ず、「幼児の教育」(二単位)、「幼児の心理」(二単位)があげられる。前者は、免許法に

といて、岡山大学で、どこに出してもは

ある分類では教育原理の単位の一つであり、

後者は教育心理に属するのはいうまでもない。初等四年課程(私の大学では創設のときからこの言葉を使っている。卒業証書にもこのことばを使う)では、教育原理や心理をそれぞれ五単位履修した上に、幼稚園の免許状をとるものには、これを履修するように勧奨している。

「保育内容の研究」については少し恥づかしい。実は、「教材研究」の中に幼児向のものを含みこんだものを、できるだけ各料に乃至二単位出してもらおう各教室に頼んでいるのであるが、実際には「健康教育」「体育教材研究」「リズム」「図画教材」「工作教材」「音楽教材」のそれぞれ一単位が、先ずこれに該当する内容をもって出されている。したがって、これらを指定して「保育内容の研究」の単位とすることができるようになっている。

無論、小学校の「教材研究」は十六単位必要なのであるが、私の大学ではそれより相当上廻る数の講義を出しているので、免許法の要求通り、前述のような六単位を保育内容の研究として引き去っても、十六単位をその上に教材研究としてやれるようにしてある。

前掲の科目がいちじるしく偏っているのは

残念であるが、その外に、「理科教材研究」、「社会科教材研究」等の中でも幼児のことが言及され、国語の専門科目の中に「幼児語の研究」の講義などがあることも、つけ加えておきたい。

なお、教材研究と保育内容の研究とを併せて二十二単位以上（二年課程では十二単位）をとれば文句はないが、前述の通り単位が偏っているためなどで履修ができなくて二単位不足するような場合には、「幼児の教育」か、「幼児の心理」かの二単位を保育内容の研究の単位に換えることができるようにしてある。

来年度からは、昨秋の研究集会の成果をとり入れて、改善を加えたいと思っている。

三

申しおくれたが、幼稚園の場合に必修になっている専門科目としての、図画、工作、音楽、体育については、初等課程の学生はこれをそれぞれ二単位ずつは必修にしてしまっているため、それにそれぞれ二単位をつけ加えさえすればいいことになっているので、大した問題ではない。

教育実習については、従来、県立幼稚園教

員養成所が併設されていて、附属幼稚園はその実習機関であるかのごとく学生が思っていたので、あまり成功を修めてきたとはいえない。最近になって、はっきりと附属幼稚園は学部学生の実習機関であると性格付けをし、実習期間八週間のうち一週間は幼稚園に実習をやることにした。むろん、その外に特に希望する者はより長期間実習することも認めている。男子の学生の中にも興味をもつものが多くなるようになり、実習に観察にとても熱心であって、効果をあげているように思う。

四

昭和三十年三月に卒業もしくは修了した者のうちで、幼稚園教諭一級普通免許状を取得した者は八名（うち五名男子）二級は二十九名（全部女子）となっているが、三十一年三月にはおそらく合計百名を越えるであろう。本年は園に就職希望の者は二名あったが、一名は小学校にまわされ、一名だけが就職している。

現在、修学年限一ケ年の県立幼稚園養成所が併設されているが、法律による存続猶予期

間もあとわずかであり、二ケ年の養成所をつくる意志は県教委側にもないので、わが学部が唯一の、養成機関たらざるをえない日も近づいている。文部省では、普通の国立の教員養成大学学部では、幼稚園教諭を真正面から養成するコースを置くことは将来といえども、しないと明言しているが、私どもも、教育奨学金の問題やら、学部の教官の定員や組織の問題から、幼稚園教諭を養成する独立のコースをたてようとする計画は持たない。飽くまでも、初等教育として小学校と幼稚園を一体とした教育を目指し、卒業生に名実ともに小学校教諭に併せて幼稚園教諭の資格をも持たせるように努力していきたい。将来、非常に小学校教諭の需要が減った場合、二年課程を小学校教諭幼稚園教諭兼修課程のかたちで残そうとする案もあるが、いずれにしても、われわれのような地方における最大最良の本格的な初等教育者の養成機関であるよう、不断の努力をつづけていきたいと思っている。

（岡山大学教育学部 坂元彦太郎記）

短期大学の保育者養成

——東洋英和女子短期大学の場合——

幼稚園教諭二級の免許状は短期大学保育科二年のコースを卒業した者に授与される。従って幼稚園教諭の養成機関は短期大学か或はそれ以上の大学の教育を受けた者で所定の単位を修得する事を要する。尚当分の間は特殊のものとして教育大学の指定指導のもとに行われる一年制の高等保育学校が認められている。これも将来は二年制の短期大学の基準にあうように努力する事を奨められている。

よく間にあう役に立つ教育というのがその主眼とも思われた。然るに短期大学の設置基準によると「高等学校の教育の基礎の上に二年（又は三年）の実際的な専門教育に重きを置く大学教育を施し、良き社会人を育成することを目的とする。短期大学は一般教育との密接な関係において職業に必須な専門教育を授ける完成教育機関であり……」と示されている。よき社会人としての教養には一般教育が非常に大切で専門教育偏重に陥ることなく、最低六十二単位の中一般教育十二単位の修得を要求されている。当初はこの一般教育は十八単位を要求されたのであるが、その後限られた時間の中

に専門教育を充実させる意味に於て十二単位とされた。然し充実した専門教育の為にはこの二ケ年の期間は充分とは言えない。あれももう少しやらせたい、これももう少しというような事が多く学生は仲々忙しいのが実情である。さればといって三年制は幼稚園教諭になる為には余り長すぎて学生の方の要求に副わない。その為には単位の配当に工夫を凝らし、専門教育と一般教育との連関を充分に考えなければならぬ。例えば心理学とか自然科学関係科目ではそれぞれ教職課程の心理学及び専門科目の幼児の自然研究等と相関連する処が多い。一方一般教育、専門教育、教職課程にはそれぞれ基準があつて別個に単位を要求されているので茲に短期大学としての苦心があり、又夫々の学校の特色も出て来るのである。

戦前は此の種の機関としては殆んどが一年制で、例外的に二、三のものが二年或は三年制を採用していた。従つてその主体をなす一年制の学校では幼稚園で即座に役立ち実施に即応するような教育が中心となされた。

次に教授の問題であるが、幼児を指導する立場から音楽、図画工作、自然研究等の分野には文部省の要求する基礎資格を持つ人では余りに専門的である。その為学生達は卒業後幼児教育の實際に當つては余程応用工夫の才能に恵まれたものでなければ困るのではないかと思う。幼児教育の場でこの道に多年精進

工夫を重ねた有能な指導者は教授としての基準の資格を欠く為に文部省の認可を得られないということも屢々ある。この問題は戦前は幼稚園教育というものが文部省の基準の中になく、すべて私立学校に委されており、戦後急に時代の要求とアメリカの勸奨によって短期大学という一つの規格の中に一般的に律せられた処に無理があると思う。

然し又一面学校教育が小学校を以て初められた制度から次第に幼稚園をも義務教育の中に加えようとする気配さえ感じられて来た。

そして幼児教育の重要性、それに対する心理学的教育学的な取扱いについての一属深い研究が促進され、短期大学の教育が実際の職業教育と同時に幼児教育の根本に入つて研究するという面に道を開いて来たようである。今後は短期大学の卒業生の中から更に進んで幼児教育の根本にまで掘り下げて研究する人々の出る事を期待する。

筆者の關係している短期大学は短期大学となつてからは僅かに六年であるが、この種の教育機関としては五十年の歴史をもち今後もこの分野に貢献したいと念願している。この短期大学の母体である法人が基督教の趣旨に

基く学園である為この短大も当初は教育と同時に伝道の使命をもち、基督教の教会に附属する幼稚園の教師養成を目的として居り、従つて学生も既に受洗している者か或は求道者で在学中に受洗すると考えられる者を受け入れていた。現在短期大学となつてからは公の機関であるから信仰の有無を条件とする事なく、広く一般に門戸を開放している。一般基督教主義の大学が実施しているように礼拝を守り、一般教育の中には聖書学科も加え、又卒業生も主として教会関係の職場に進む者が多い。献身的に学生の指導に當つた外人教師の伝統を引いて宗教的情操を多分に含んでいるが、その中で学生達は熱心に研究に當つている。

その内容について、三を次に述べるが、此の中から読者の参考となるものがあれば幸である。

観察及び見学は現在第一学年で行うが、このやり方については従来よりも科学的な方法で行うように努めている。又本年後期からは学生を二人宛組み合せて幼児の個人観察をやらせ、児童研究の教師がカウンセリングにより指導している。

教育実習はややもすると技術的な面のみに陥り易いものであるが、実習に當つては従来のようにいたつたら毎日の時間をかけて所謂経験を得る丈ではなく、これを講義や研究と緊密に連絡させる事によって基礎的なものを把握するように望んでいる。このようにして在学中に学生が幼児教育に対する研究態度を養う事が大切である。幸いに本校では一年の生徒数を四十名以下に限っているので学生に対する教師の個人指導は割合懇切に行われている。

次に幼稚園教育に大きな部面をもつ音楽については二ヶ年間に専門科目として二単位(必修) 教職に関する科目として二単位(必修) 音楽理論その他として選択六単位を設けてある。又実技としてのピアノ練習に要する時間は相当莫大なのである。本校はこのようにして昔から音楽教育に非常な力を注いで来たが、近年になつて入学試験にピアノ実技を廃止するようになった。それは幼児を保育する為に最も適したピアノの弾き方を入学後に指導する為である。最近幼稚園で行う歌やリズムは音楽としての技術を進歩させる事よりも子供が社会人として円満な発達を遂げる為

の一助として考えられるようになって来た。その為幼稚園の音楽は以前と違った意義をもつようになって来たと言える。例えば歌が上手に歌えるためには是非ともピアノの伴奏が充分でなければならなかったが、此の頃のようには子供の創造的表現力を重んじるのであれば、あなたがちピアノがなくとも適当な打楽器をこれにあてる事も出来得るわけである。即ち教師がピアノを上手に弾ける事も望ましいが、それよりも音楽全般に亘つての理解とそれが幼児教育に於てどのような意義があるかという事を知っていなければならないと思ふ。

次に教科の中には必修と選択の科目があるが、実際には時間割と実習の関係等から選択の自由をあまり持つ事が出来ない。しかし出来得るならば心理学、児童研究及び教職に関する科目で重要な科目の理論的な面をしっかりと充実させたいものである。それには教授陣の充実と整備された図書館が必要になる。この方面について目下懸命に努力を払っている。

教科の次に考えられる問題は短期大学で新しい教育方法の教育を受けた学生が卒業後の

職場でそれを実施するに当って可成りの困難を感じる点である。即ち幼稚園の経営者が幼児教育についての教育方法に無理解なところが相当あるという事である。一から十迄子供のおもりが主であり、送り迎えをしたり、授業料まで徴収集金に歩いたり、或は二百名に余る子供を一室で一斉に保育しなければならぬような所ではこれで真の教育が与えられないであろうか。このようにして学生が遂に目の先の安易な方法に堕ちてしまうような事のないようにしたいものである。

最後にこれは短期大学学生に限られた問題ではないが、最近の学生氣質を云々して研究心に欠けているとか軽薄であるとかいう声大きく短大保育科に学ぶ学生は将来の目標が明確なので概して真面目で使命感を持つ者が多い。純真な幼児の教育に大きな責任をもつ者はそれ丈重い責任を感じるが、一面生き甲斐のある真剣に取り組んで行ける尊い職場であると思ふ。

(東洋英和短大 黒田成子記)

新 刊 案 内

文 学 博 士 武 政 太 郎 先生 監 修
玉成高等保育学校長 有 院 扁 良 先生 校 閲

玉成高等保育学校幼児保育研究会編

フレーベルの恩物の理論と^{その}実際

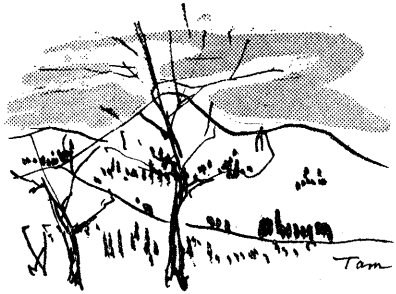
A5判 330頁
定 価 450円
箱入上製本
〒 32 円

フレーベル先生が創造された恩物について、著者の多年の研究の結果が、平明に説かれている。恩物の研究家、ならびに幼児教育者必読の書!

株式会社 フレーベル館

幼稚園教員養成 の現状について

村山松雄



学校教育法の施行以来幼稚園は正規の学校体系のうちに取り入れられ、その教育目標も明らかにされ、一方社会における幼児教育の重要性に対する認識の強化と相まって、短時日の間にその数においてに飛躍的な増加を見た。昭和三十年五月一日現在で幼稚園の総数は、国公私合わせて五、三一六に達し、学級数一八、二七六、園児数六四三、三五六人、教員数二四、九八三人（本務者）となつてゐる。数学的に見れば幼稚園教育の発展は目覚ましいものであるということができよう。しかし、幼稚園教育の振興という点では、単に園数や園児数の増加だけで足れりとするのももちろん早計であつて、内容的に見ると幼稚園教育の眞の発展のためには今後まだ解決すべき多くの問題を

含んでゐる。教育課程の確立とか、施設設備の充実とか、職員
の待遇の改善とか、学校体系中の位置づけにおける一段の飛躍
だとかいづれも今後の研究課題である。

教員養成の問題も又課題のうちでとりわけ重要かつ困難な問
題である。旧制度においては、幼稚園教員の養成は、国民学校
教員に附帯して行われるか又は特に計画的ではなく、高等女学
校卒業者等のうちに求められていた。新しい教員養成制度にお
いては、教員養成はすべて大学において行う建前となり、幼稚
園教員についても同様となつたのであるが、義務教育学校の教
員については計画養成の措置を講じているのに対し、幼稚園教
員については、現在のところそのような措置は考えられておら
ず、旧制度の場合にそうであつたように、小学校教員の養成に
附帯して行われている場合が多い。しかも、前に述べたよう
に、教育課程がまだ充分確立されておらず、又教員の待遇等の
関係もあつて、幼稚園教員の養成は内容的にも確立しがたい現
状であり、大学四年の課程で行うという教員養成の原則にのみ
より難い実情である。したがつて現在の幼稚園教員の養成は、
国立大学としては、お茶の水女子大学と奈良女子大学に特設さ
れた二年の臨時養成課程で専ら行われている外は義務教育学校
の教員養成を目的とする国立大学の小学校教員養成課程におい
て、副免許取得の形で行われ、公立私立大学では家政科、保
育科等で幼稚園教員養成の課程として文部大臣の認定を受けた

ものにおいて養成されている実情である。なおこの外に、幼稚園教員の需要に應ずるために、公私立合わせて三七の臨時教員養成所が文部大臣の指定を受けて専ら幼稚園教員の養成を行っている。この養成所は、従来は仮免許状取得を目的とするものであったが、昨年の教育職員免許法の改正により、近い将来において、二年の課程として、二級免許状取得を目的とするものに切替えられることになっている。最近、幼稚園の保育要領についても成案が得られるような模様であり、幼稚園の教員養成の内容についても研究が進められている。

幼稚園の教員構成はまだ不十分な状態であり、これを是正することは、単に有資格教員を養成することだけは、解決できないことは、前述の通りであるが、幼稚園教育振興の為には、今後よりよい教員の養成という方向で更に努力することが必要であろう。

(文部省教職員養成課長)

昭和三十年全国 国立大学教員養成 学部教官研究集会

(幼稚園の部)について

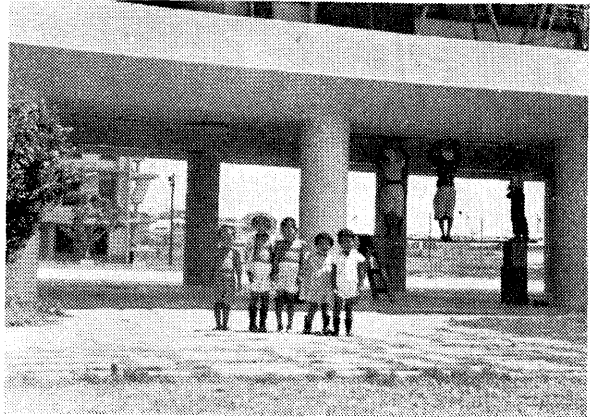
(津守 真記)

昭和三十年度の幼稚園教育養成に関係ある国立大学の教官の集会は、去る十一月十四日より十七日まで四日間、岡山大学において開催され、関係大学三十六校より教官四十六名が出席して、幼稚園教育の養成の具体的な問題について活潑な討議が行なわれた。昨年の大分の集会につづいて、教育内容の問題がその主たる議題であった。全国の各大学によって、保育内容としてどのような内容のものを何単位あてているかということは、それぞれの大学によってかなり事情が異なるのであるが、共通の問題として、教職専門科目としての保育内容をどのように考えるべきか、またその具体的な内容としてはどういふものを盛るべきかについて、一応の諒解に達したのであった。主催校の努力によってこの問題に関する各大学の実情などの詳細な資料が予め配布されたことは有益であった。分科会は夜までつづけられ、熱心な討議が交された。

その結果、保育内容の総論を含めた幼児教育原理の教授内容の要領について参考案が作成され、検討が行なわれた。幼児心理と幼児教育原理がそれぞれ二単位備えられる前程のもとに、次に保育内容の研究各論(健康、社会、自然、言語、音楽リズム、絵画製作)について、教授内容の参考案が作成されたが、各論については十分な検討までには至らなかった。これらの具体的な案の詳細については、文部省より近く刊行される幼稚園教育教員養成学部教官研究集会集録に見ることができる。

沖繩の 幼児教育

村山 貞雄



(琉球政府の前で遊ぶ子ども達)

三 沖繩の幼児教育

沖繩の幼児教育は、大体以上のような基盤のうえにつちかわれているが、特に戦後の幼稚園教育は沖繩のもつこれらの特殊性を包蔵しており、興味のある様相を示している。

終戦直後の幼稚園の発生状態 最初にち

よつとふれたように、筆者は沖繩に行くとき、「沖繩では幼稚園教育はほとんどおこなわれていないだろう」と想定し、「もし少数の幼稚園が存在していれば、これらの幼稚園が特別にはらっている努力の内容や、そこに入園してくる幼児の特殊性を把握して、教育史を考えるばあいの一つのちからをえたい」と考えていたのである。

ところが、この先入観はまったくくつらぎられた。すなわち、沖繩の幼稚園教育は、あの想うもいたましい鉄の暴風雨が終った後、痛烈な打撃をうけながらその惨憺のあとに立ち上った小、中、高校の教育と肩をならべて颯爽と誕生している。

そもそも、幼児教育と特殊教育の両者は、他の教育が相当に充実し、他の面の教育に余裕ができてきたときにはじめてかえりみられ、教育組織も芽生えてくるのが普通であり、歴史的にこれをながめても、他の教育が充実した十九世紀頃からおこっている。

沖繩では、この原則をやぶって、終戦後のいわゆるコンセット（かまぼこ校舎）の時期から、幼稚園が小学校とならんでさかんに復

興した。復興したというよりも、むしろ勃興したというべきであらう。

すなわち、すべての小学校に一年保育の政府立の幼稚園が設けられた。その結果、昭和二十六年には、沖縄群島の幼稚園数は約九十校に達した。(昭和三十年における小学校数は、本校百十二、併置校七十六、分校四十六である。)

これらの幼稚園は保育料をとらず、就学一年前の幼児を準義務的に就園させたので、園児数も非常に多くなった。そして昭和二十六年頃には、園児数が約一万人におよぼうとしており、教員数は約二百五十名になったが、二十七年にはさらに多くなった。

その結果、戦禍に立ち上った沖縄の教育は、小学校教育が一年低下したような奇観をさえ提するに至った。

幼稚園の発生の理由 どうして、このように多くの幼稚園が発生したのか。筆者は不幸にして深い適確な原因をさぐることができなかった。

しかし、沖縄の幼稚園の先生がたの話を綜合すると、終戦後、最初教育の費用はアメリカが一切もつということになったので、全部

をもってもらえるのなら、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学というのが、教育の段階なのだから、幼稚園からおくほうがよろう、どうせ全部もつてくれるのなら、終戦前に附属幼稚園というのがあったが、全体の小学校に附属の幼稚園(実際は附設幼稚園)をおこうということ、幼稚園をおいたことが、もっとも大きな原因であったようである。

アメリカのほうも、別にこれに反対する者もなかったらしく、幼稚園が無事にぞくぞく誕生した。その結果、園児数が一時非常に多くなった。

幼稚園の変遷 沖縄の終戦後の大きな問題として、土地問題などともに、全島の人に強く関心をもたれているものは、教育問題である。

沖縄は終戦前も教育県といわれていたのであるが、敗戦の結果、財産その他外的な保証の無力さを感じた現在、これらの人々が子弟の教育に力をそそぎ、内的な資格をつけようとするのは当然の帰結であつたらう。まして、敗戦した人々が、まだ復興を強くこころざし活力をもっているばあいは、国土復興の手段として教育に一その力をそそぐのが普通

である。そのうえ、沖縄のように産業が八方ふさがりの状態では、教育によって資格を得ることが考えられ、教育が非常に重視されるようになった。(このほか、沖縄では、政治では本土との関係をたち切られているが、せめて教育でなりと本土と関係をもつて向上したいという気持があり、この原因でもまた教育が重視されている。)

そこで、まずカマゴコ校舎の改善がさげば、屋良朝苗氏(現沖縄教職員会々長)がアメリカの圧迫をはいして日本に校舎改善の訴えをして成功するなどのこともあり、アメリカも教育に大いに熱をいれはじめた。その結果、校舎の改良、教師の待遇の改善、教師の資質の向上による教育内容の充実が特に強く考えられた。(この三つは、現在アメリカの沖縄人にたいする公約となっている。)

このようなことを実施しようとすると、教育のために支出する費用が問題になる。現在でも、琉球の児童生徒の一人あたりの教育費は八千七百円であり、内地の平均一万二千六百円あまりであるのにくらべると大分少ないが、もっと費用を増したいという考えがさかんにあったのは当然である。その結果、義務

教育以外の費用、特に幼稚園につきやす費用の削減が考えられた。そして、幼稚園にたいする費用は、昭和二十八年に全部削除されてしまった。私立になったのではないが、教育予算がとれないことになったのである。

この結果、当然各園児について月謝（保育料）をとらなければならなくなった。月謝料はまちまちであるが、B円で月三十円乃至五十円ぐらいである。かりに、B円で月五十円とすると、日本円で百五十円になるわけであるから、低廉であるといえよう。なお昭和三十年に那覇区の教育委員会では保育料を五十円から七十円にあげるように計画し、これで幼稚園の先生の給料や保育内容があげられるとして先生がたは喜んでいたが、父兄の負担の過重をさげるべきであるという意見もあって、八月に保留になった。

現在はこのほかに正式の補助金はほとんどないが、PTAの入費から補うようになってくる。

月謝をとるようになると、経済的に富裕な那覇市などでは、幼稚園がそのまま存続することが可能であったが、経済的余力の少ないいなかでは、次第に幼稚園が廃止されるよう

那覇市内の幼稚園幼児数

小学校名	附設幼稚園在籍幼児数	第一学年在籍児童数	%
高良小学校	256	291	88
小祿	200	201	100
垣花	90	141	64
城岳	358	497	72
開南	448	501	89
壺屋	608	616	99
久茂地	330	370	89
城北	188	204	92
城南	171	170	100
城西	195	276	71
真和志	259	384	68
大道	793	899	88
大安	164	251	65
楚邊	365	450	81
浦添	0	230	0
西大東	0	295	0
北大東	0	20	0
南大東	0	68	0
計	4,425	5,864	76%

になった。そして、現在では経済力の低い地域では大体廃止されてしまったが、なお全琉球で大体百ぐらいの幼稚園が残り、ほとんどの町村が幼稚園をもっている。那覇市だけについてみると右表のようである。

なお、保育料をとりはじめるとともに、幼稚園はすべて自由募集制度となり、一年保育制度でなくなった。その結果、二年保育児も、きわめて少しであるが入園している。

幼稚園の現状 このように幼稚園が法的に一段と軽くみられるようになると、幼稚園につとめる先生のあいだにも劣等感が生じて

きた。

この原因は、沖繩では、前に述べたように幼稚園保育を小学校教育が一年低下したように考えており内地のように幼稚園保育が特殊の技術として認められ幼児期が特別な成長段階として重視されていないことや、幼稚園の先生の自覚と学歴の低いことなどによっている。(尤も、沖繩で現在幼稚園の先生に劣等感があることを感じる者は多いが、このことを公言すると、幼稚園の先生がたはその考えの不当を強く感じるのが普通であり、手いたい反駁を覚悟しなければならぬ。)

すなわち、これらの先生の大部分は、かならずしも幼児保育のための教職訓練を経たわけでもなければ、幼児保育に特別な熱意をもっていたわけでもない。(勿論少数の先生を除いての話であり、なかには非常に熱心な先生にも筆者は遭ったのであるが。)

幼稚園の教諭が軽視されている例としては、たとえば、小学校の教諭をなにかの都合でやめた人が、復職したいが空席がないようなばあい、一応幼稚園の先生として席を求めようなおこなわれている。また、現在、幼稚園のほうにつとめているが、なるべくはやく母校である小学校のほうにかわりたいという先生もかなりいる。

なお幼稚園の教員の免許資格は、現在法的なうらづけがなくなってしまう。

これは、昭和二十八年に、ユースカ（USCAR）から校長、教員の免許状に関する布令がでたのであるが、そのなかに幼稚園が含まれていなかったためである。ユースカの布令は、琉球教育法に優先するために、幼稚園の先生は法的なうらづけがなくなってしまう、単位の修得や本土留学などの研修の機会も、うばわれることになった。

すなわち、公立幼稚園の先生は、琉球の教育基本法からすれば、教育公務員であるが、給料は保育所からとるものであり、保育料がほとんどそのまま先生の月給になっている。教育委員会からは補助も指導もうけていないという。尤も実際には、教育委員会から幼稚

園に少しの補助を出しているところもある。

その結果、幼稚園の教諭は他の学校の先生にくらべると俸給が低く、初任給はB円で約三千元（日本円で九千元）である。

なお、このような条件のために、研修制度の特典もなく、内地への研究員制度はもとより、内地への教育視察などもおこなわれないう。琉球の教育が内地の教育と密接につながりをもつことを希望していることは前に述べたところであるが、このことは幼稚園教育においてもきわめてはげしい。筆者の滞琉中に日本への講習をうけに行くために非常に苦勞をした幼稚園の先生の話が新聞にのっていた。（筆者はこの先生からも幼稚園の現状の不安定なことについて種々きくことを得た）

また、筆者等はこのたび、アメリカ琉球民政府の招聘によって、琉球大学の拡充講義としてひらかれた現職教育関係職員の見習いに渡したものであるが、このばあいは幼稚園教諭は、受講者の範囲に入っていなかった。（実際には筆者の見習いにも四名の幼稚園教諭が受講されたが、これは無理をおして受講されたのであった。）しかし、この現状は、現在幾分反省されかけており、文教局の指導課では、

幼稚園教諭の研修会をひらく予定をたてつつある。

要するに、現在の幼稚園は法的には疑義のあるおかしな状態になってしまい、実際には虐待されることになった。

幼稚園がこのような状態では中途半端であるから、一そのこと、私立幼稚園にしようではないかという意図も公私を通じて存在している。実際、現在では公立であるために、自由募集も制約されており、その結果この幼稚園でも入園の申し込みをした者はほとんど入園させている状態である。しかし、このため、那覇市内でも一クラスが五十四、五名に及んでいるものがある。さらに、いなかに行くところと一クラスが百名をこえるところもあるというである。なお園長は、本校の小学校長が兼ねていることが多い。

また、保育所のように社会事業として、予算を市役所の厚生課や社会福祉課にふくめてもらって、そこから経費を出そうとする者もある。しかし、この考えも、現在では教育税があるために流用がきかない。

また幼稚園が小学校に附設されていること、にたいして、幼稚園の先生のなかには、日本

にもよくあるように、小学校と幼稚園を分けることを主張する者もあつた。特に、各幼稚園の通園区域を小学校よりもせまくするために、幼稚園をもっと分散せよとする意見が、もっともなすける意見としてきかれた。

しかし、一般の父兄の傾向は、この主張とは反対のようである。すなわち、父兄は、幼稚園を小学校になれさせるための機関として考えていることが多く、そのためには、まもなく就学するであろう小学校のなかで、その小学校の雰囲気味わいつつ保育されるのが、もっともよいと考えているようである。したがって、教師の多くの意見として、幼稚園を分散させても、本校(小学校に附設されるであろう幼稚園を先生方はこう呼んでいた)に、子どもを入園せよとするきもちが父兄間に支配的になるであろうという意見であつた。以上のことから推測されるように、沖繩においては、特に那覇市においては、就学年齢の一年低下という気分が多く、幼児期に自主性をもたせて幼稚園を考えると、こ

とは少ない。
なお、幼稚園の設置基準のないことは、わが国と同様であるが、これは早急に設置基準

をつくろうという動きがあり、その作成のために筆者も滞琉中に意見をきかれた。将来はかなり厳格な設置基準をつくり、それにあてはまらないものは保育所にしようというのが文教局の意見であつた。

昭和三十年八月六日に沖繩タイムスに載つた文教局の説明要旨はつぎのようである。

(当局の説明要旨)

「幼児教育は必要であり、大きな役割を占めているので適正な基準をもち、カリキュラムを組んで保育所的なものから脱しなければならぬ。ただ現在では義務教育でさえ充実していないので、幼稚園をそこまで引上げることは困難であり、当局のナヤミもそこにある。いまのままでは小学校に進学しても「出さない」よりはいいという程度であり、かえって義務教育の邪魔になることさえある。それは教師の質の問題で、子供の自主性、自発性を封ずる教育をしているところが多いことも事実である。一人の教師が、五、六十名の園児をかかえているのも効果を下げている一因である。」

現在幼稚園教諭の養成施設が皆無である。
幼稚園の現在の悩み 沖繩の幼稚園は、

沖繩の他の教育機関と同様に多くのなやみをもっている。しかし、特に幼稚園だけのなやみも少なくない。いままで述べてきたことからも、大きな悩みがあることが、察知されるであろう。たとえば、那覇市の幼稚園の先生がたは、市に一人の幼稚園関係の指導主事もないことに不平をいだいている。教育税の徴収率が悪いので、幼稚園を廃止してしまえというかけの声に、つねに自分の地位を不安に感じている人もあつた。

しかし、こころみにだれかが幼稚園の先生に、「現在、大きな悩みはありませんか」とたずねたとすると、ほとんどの先生が、かならずすぐにもちだすであろう二つの悩みがある。その一つは、絵の指導の問題であり、他の一つは保育道具の少ないことである。

悩みのその一——絵の指導 について、どのようなことを悩んでいるかというと、本土の先生が、絵の指導は自由画を専らとすべきであり、幼児の絵は指導してならないといわれた。また、保育の書物を読んでも、そのよ

うなことが書かれている。
しかし、指導しないでみていると、いつも同じ絵ばかりえがいている幼児もあれば、あ

その技術を少し教えてやると、つかえてい
る箇所がとれ、絵が伸びて、その幼児も絵を
かくことをさらに好むようになるのだがと思
われることもある。このようなばあいに、一
体われわれはどうしたらよいのだろう、とい
う悩みである。

すなわち、指導しようと思うと、指導して
はいけないという言葉がすぐに頭に浮んでく
るし、そうかといって指導せずにおられない
気持ちがおこる（必要を感じる）のを、どう
したらよいかという悩みである。

悩みのその二、——いま一つの悩みは、保
育道具の不足である。たりないというよりも
ほとんどないのが実状である。

終戦後、沖繩の先生は、皆自分で木をはり
合わせて黒板をつくったり、白墨の代用品を
考案したり、がり版で教科書をつくったりな
どして、無から有を生じる努力をしてきた人
ばかりである。復興する学校の初代校長を歴
任したある先生は、「わたしは行く学校行
く学校で何をしていたかというと、家をたて
る大工ばかりしていた」と筆者に語られたこ
ともあった。しかし、現在小中高の諸校で
は、このような学校施設や教具もようやくお

ちつてきたのにくらべて、幼稚園は財政的
原因のためにまだ遊具がほとんどない状態
である。

小学校以上の教育にくらべて、幼児教育に
おいては保育用具のたいせつなことは、わた
したちの深く認めるところであるが、それだ
けに幼稚園の先生がたのなやみは深いよう
であった。せめて、幼稚園に専属したオルガ
ンや、砂場、ブランコぐらいはあらゆる幼稚園
にそなえたいものであり、内地からならか
の救援ができれば、沖繩の幼児はもとより、
わたしたちと同じ仕事にたずさわっている先
生がたがどんなによろこぶことであろう。

幼稚園の今後のすがた 最後に、沖繩の
幼稚園の今後の見通しについて一言ふれてみ
よう。

この文章で筆者は、渡琉するとき沖繩に幼
稚園教育などはほとんどないと思っていた
ら、内地以上の幼稚園教育がおこなわれてい
た、この原因の多くは終戦のどさくさにあつ
たようであるが、平常に復するにつれて、幼
稚園は他の教育の重荷とされ、多くのものが
廃止されたことを書いてきた。

ところで、幼稚園ができて数年たった現在、

そして愛児に幼児保育をうけさせた経験のあ
る父兄や、これらの子どもをうけ入れた多く
の小学校の先生が存在してしまつた現在、幼
稚園を廃止するには根づよい抵抗ができてい
る。

すなわち、幼稚園をつくつた当座は、只な
ら多い方がよいというほどのきもちでつくつ
た幼稚園ではあつたが、実際に幼稚園保育を
何年かやってくると、廃止するということは
難しくなつてしまつている。

この原因の第一は、父兄の感じとして、幼
稚園にあげるのが当り前で、幼稚園にあがら
ぬと小学校にはいれないと、ごく自然に考え
ている父兄が多いことである。これは幼稚園
をつくつた当時、幼稚園を義務教育のごとく
みなしてつくつてしまつたことにもよると推
測される。ゆえに、月謝の値上げを主張する
にしても、それは、月謝がたかければ子ども
をいれないというような感じではなくて、経
費をやすくして全部の家庭の子どもをいれた
いという気持ちの発露としてあらわれること
が多い。（現在義務教育は、文教局の調査に
よれば全学年とも九十九%をこえている。）

また、数年のあいだに実際に保育効果があ

がるのをみせつけられたことも、第二の大きな原因である。三つの幼稚園の約二十人の父兄にいろいろたずねてみたが、保育効果をうたがう者は、ひとりもなかった。

この保育効果のなかでも特筆すべきものに、方言と標準語の問題がある。前に少しふれたように方言は日本語の系統をひきながら、標準語と非常にことなるものである。那覇の上流の家庭では方言を知らない幼児もあつるが、一般には標準語では通じない幼児が多い。小学校教育は標準語をもっておこなわれるので、何の準備期間もなく小学校にあがつた子弟はハンディキャップが大きく、まったく当惑してしまふ。先生も、これらの子どもにたいしては、まず国語教育からおこなつてゆかねばならないので、面倒に感じる。幼稚園が家庭から学校へスムーズにわたれるためのかけ橋になっていることは、沖縄でも他の国と同様であるが、沖縄では特に、方言から標準語に円滑にうつるための漸移地帯として幼稚園の役割りが大きく浮き出している。

そして、このような効果をあげる幼稚園に多くの子どもが行っている現在、自分の子どもだけやらなないとすると、それらの少数の子

どもは、おいてきばりになるおそれが多く、ハンディキャップがますます大きくなるであろう。そこで小学校にあげる前には、まず幼稚園にあげるものだという考えに、拍車がかかることになる。

なお、これらの原因のほか、幼稚園が沖縄ではたしている保育所的な役割も見逃してはならない。

以上の種々の理由から、先生の質もわるく保育設備もわるいといわれながら、幼稚園は現在ではむしろふえる状態であり、現在以上に幼稚園教育が急激におとろえるとは推測できない。どうしても存続してゆけない地域、(主としていなか)の幼稚園はもう廃止された。のこつた多くの市町村にある幼稚園は基本沖縄がもつあらゆる悪条件にもかかわらず存続されてゆくであろう。

また実際には、幼稚園関係者は、その方向に最善の努力をするべきであろう。

沖縄の現状からみると、現在の幼稚園の数だけでも、警沢であるという感じをうけがちである。ゆえに、いま当分は、月給値上げ、遊具購入などについてあまり強い要求をだしすぎて、かえつて幼稚園は重荷であるという

なげやりの気持ちを為政者や他の教師におこさせて、縮小されてしまわないように気をつけるほうがよいであろう。(小学校の先生のなかにも現在附設幼稚園を重荷に感じている人が少なくない。) そのほうが、幼稚園の先生がたがもつとも愛する幼児のためにもなるであろうからというのが、わたしが沖縄で幼稚園の先生がたに述べてきた意見である。

なお、最後に私立幼稚園と保育所の問題について一言ふれておこう。

私立幼稚園 父兄は幼稚園を一年生の準備という意味で考えており、就学することになつている小学校との連絡を考えると、いわゆるその附属幼稚園に入れるというのが本当の希望である。ゆえに、公立幼稚園が現在のようなかたちで存在している以上、私立幼稚園は設立されても、入園希望者がきわめて少ないであろう。その他の条件も考えあわせて、結局、私立幼稚園は育ちにくいという感じがした。育つとしても、那覇市にごく少数のものが生じる程度で、ここ当分は、キリスト教関係のものが資金と布教の関係から発達するであろう。

幼
児
の
造
形
林
健
造



(幼稚園に入った日・満5才・材料マジックインキと水えのぐ)

I 窓を開けよう

幼児の絵や製作についての問題は、最近とみに活ばつてきました。それは、今までのように、絵や製作がたんに手技の巧さだけの問題ではなく、もっともっと奥深い幼児の精神や、性格などの人間の心の問題と深いつながりがあるものだということの発見によるからであります。

したがって、幼稚園や保育所の実際の場に立って、幼児の絵や製作とはどんなものかという理解や、その正しい育て方はどうあるべきかがいろいろ問題になってくることと思います。

これから、二、三、四月号と連続して、このような問題について、読者の皆様と研究しあっていきたいと思いますが、さて、この講座をあまり肩のこらさない、しかも皆様のお役に立つこ

とができるようにするために、理論的な話は「話の窓」で、また、実際の保育に役立てていただくための技法や試みは、「実技の窓」というように二つの窓に分けて述べていきたいと思えます。

なお、幼児の造形について、皆様からの御相談や御意見でもいだけましたら、そのためにはまた「相談の窓」を設けようではありませんか。

「窓を開けよう」

何という清々しい、明るい言葉でしょう。窓から流れこむ新鮮な空気と、温かい陽ざしとは、鬱気や濁った気分を一掃してくれることでしょう。

話の窓

II すばらしいニュース

一九五一年、英国のプリストルで開かれた美術教育に関する国際的な研究会で、日本の子ども達の絵を各国の代表的な人々に批判してもらいました。これはいわば、戦後始めて日本の児童画が、世界の水準と比べてどのような地位にあるか

を知る貴重な機会でありました。ところが、そこでの大多数の国々からうけた批評は、案に相違して、あるいは、案の定、「日本の子どもの絵には創造性が欠けている」という言葉でした。それから我が国では、「創造性をのばすためには」とか「創造主義美術教育」とか、いろいろ創造性について盛んに研究されてきましたし、現に、やはり、最も大きな問題の一つとして叫ばれつつあります。

ところで、それから丁度四年目の今年の八月、南スウェーデンの古い都ルンで国際美術教育会議が開かれ、その模様をスウェーデンの日刊紙が伝えていますが、とくに、各国の児童画展について述べている中で、

「日本の子どもの絵は、生氣発刺とした感じと、色彩の豊富さによって、全参加者から、多大の賞讃をうけた。」
ことを報じています。

このことは、皆様とともに、殊に日本の子どもたちのために大いに喜んでいいことであり、一応日本の子どもの絵が国際水準では高い方であることの自覚

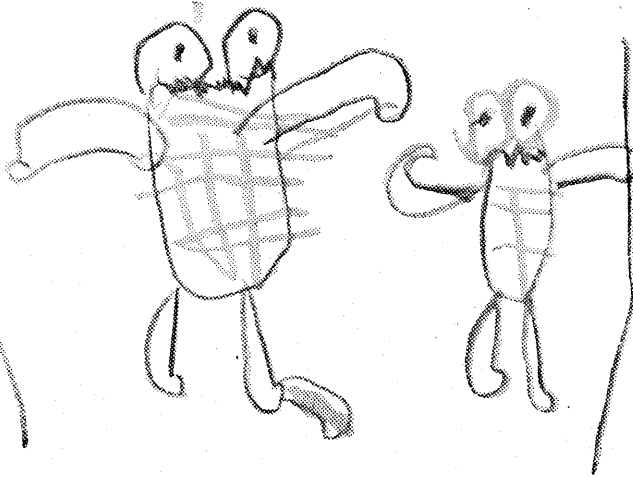
と、やればできるといふ自信を深めるよい機会をえたものと思います。

ちなみに、あらゆる国の出品のうち、最も困苦しい、自由さも、色の喜びも感じられなかったのはフランスの作品で、また、鉄のカーテンの内側からきた絵には一種の萎縮が感ぜられたということや、子どもが自由な状態で描かれた場合、内容の傾向は大體にているがそれでも国々の特色、例えば、セイロンの子どもは象狩り、アメリカの子どもは映画女優のような長いまつげを、英国の子どもは工場の煙を描いているということなども伝えております。(UAL = ニュース十一号)

Ⅲ 造形活動という名前

今度は国内のニュースです。全国図画工作教育大会は、美術教育に関する我国で最も大きな会合で、毎年各地方順々に行っていますが、今年第八回で東京で開催されました。いろいろの問題について研究討議し

た中「昨年の仙台大会の時に、幼稚園の保育内容中の絵画・製作を造形活動に改めるよう、文部省に御願いしたが、今年はお改められない。ただ絵画と製作の



(かえるさん・満五才)

間の点(・)がとれたのは、絵画と製作の一体性を重視したものとと思う。」という報告がありました。

なぜこのようなことが問題になるかというと、小・中学校の図画や工作よりも絵画・製作は難かしい言葉で、専門的な芸術の分類用語である。ということだけではないのです。

幼児の絵は絵画ではなく、むしろ言葉である。といった方が適切かもしれませんし、絵画が作品主義で結果に重みがかかることに比べて、幼児の絵の場合は、遊びとしての過程に重点があります。絵画という名詞的な言葉に対して、製作は絵をかく活動をも含めた動詞的な言葉であることなども問題でしょう。それから、絵画と製作というように、かく然と分けることのできないのが幼児の活動の特色であるということも言えます。ようするに、絵や工作や、デザインのベース(基盤)になるとみられるような混然とした活動なのです。この意味で、以上を総括した名前として新たに造形活動という言葉が適当であるとされて、ここにとりあげ

られてきた訳であり。

いづれにしても、こんなややこしい名前や、内外のニュースなどの紹介に大部分時間をとって恐縮ですが、ここが今日、最も新しい問題の一角であり、しかもその中には、従来の指導のしかたと新しい方法の違いや幼児の絵や製作の正しい意義や、その中心となるねらいなどのこれから以後にお話しようと思う重要な事柄を孕んでいると思うからであります。したがって私もまた次後、幼児の絵画製作を造形という言葉で述べていきたいと思えます。

IV 幼児の造形のいみ

子どもたちの元氣な遊びをみていると、よくもまあこうも次から次と考えると、くものだと思われ程に自分たちの遊びをいろいろ創造していきます。

かって大人の私たちが、そして私たちの祖先がそうしように。

子どもこのような姿は、洋の古今東西を通して変らない姿でありましょう。ただ、この変らない子ども姿に対し

て、その見方や解釈の仕方は大変な変わり方をしました。それには、十九世紀末頃から盛んになった児童美術についての研究が大きな役割を果たしたことも事実です。

従来は、子どもの作ったり、描いたりしたものは、稚拙で、無価値で、なんの意義もないものであると思われていましたし、大体、子どものいろいろな造形表現は、たんなるいたすらとみられ、着物を汚すことを叱ることはあっても、この叱ることによって、子どもの大事な、造形の芽や、物を創りだそうとする創造のふたばを摘みとることになるなどとは考えもみませんでした。

子どもは体が小さいから小さい紙にかくのが適当とされ、また、えのぐなども高学年でないと使うものではないと思われておりました。

「キントト・マンマヨ。」などのかたこと、はとでもかわいと思った親でも、絵になると、「この子はお馬鹿さんね。こんな頭でっかちで、お家より大きい子なんてある？」ということになります。そして

その年令の頃自分がこの子と同じような絵を描いていたことを忘れて、現在の大人の知っている技法や見方で、いわゆる型にはまった概念的な絵を教えこむことが多いようです。

ピカソは美しい言葉で、このことについて教えてくれています。

人は小鳥を理解することなく愛している。絵になるとなげます理解しようとするのだろう。

たしかに子どもの絵は、ものの形も色も、大きさの釣合も不自然で、レントゲンのように透けてみえたり、逆立ちしていたりしていますが、これは日本の子供に限ったことでなく、世界の子どもも、この年令では同じような絵をかきますが、これは子どもたちにとっては、きわめて自然な描き方であって、大人と子ども心理的な違い、とくにリユケがいつているように、大人は見たままをかく(視的リアリズム) に対して、子どもは知っていることをかく(知的リアリズム) のであることなどが解明されることによって、ようやく子どもの造形表現

について理解するようになりました。

また、幼児の自発活動や、創造性は、主として、表現活動を通して伸ばされるものでありますが、幼児の旺盛な表現欲は、言語や文章などのような抵抗の多い表現形式よりも、もっと具体的な、そして直接的な造形的表現となつてあらわれやすく、逆に言えば、絵を描いたり、ものを作ったりする活動を通して、幼児の自発活動や、創造性を逞ましく伸ばしてやることのできるということになります。

したがって幼児の造形とは、その心の表現です。今、幼児の造形について端的にいうならば

子どもが自己の心理的生活を表現するための視覚的手段である。とも、

幼児の造形は、生活記録である。ともまた、コックレル教授の名句

絵は子どもの心をのぞく眼鏡である。ともいえます。

このように、幼児の絵や工作には、子どもの心、とくにその無意識も、最も卒直に表われるために、後述するように、

幼児の造形が、最近幼児の精神衛生や治療に大きな役割を果すことにもなるのであります。

実技の窓

◎水えのぐの指導

現在、進歩的な国々の美術教育では、幼児の時代から水えのぐによって描かしている所が多いようです。

その要領は新聞紙二つ折大の大きな紙に、不透明な水えのぐで、丁度らく描きながら描かせることです。

まず、水えのぐの前に、毛筆を使う機会を与えるために、墨汁を茶碗などに出してやり、習字用の太い筆(できれば、穂先をちょっと切っておくか、紙やすりですっておくとよい)で新聞紙や包装紙などの上に線描の絵をかかせます。教師は墨のふくませ方や、墨の乾き方を側面から注意してやります。

えのぐの場合もそうですが、一番困難な点は、筆にふくませる墨(えのぐ)の

分量が多すぎても、少なすぎても困ります。

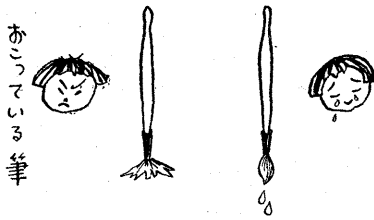
そこでその分量について、幼児にも解り易く説明するために次のように指導するとよいでしょう。(図A)

○分量が多すぎてしずくが滴る時……

(筆さんが泣いてるよ)

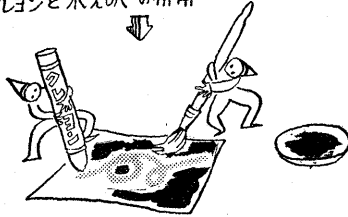
○分量が少なすぎて穂先がばさついてい

ない泣いてる筆



(A)

クレヨンと水えのぐの併用



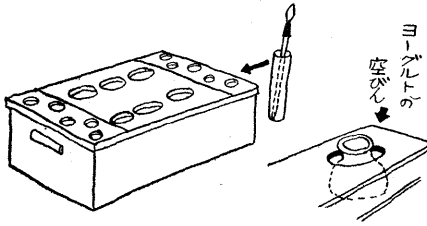
(B)

る時……(筆さんがおこっているよ)

次にバスやクレヨンで形をかかせて、その上から水えのぐを塗らせるのも初歩的な段階ではよく使われる方法です。(図B)

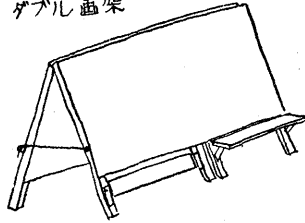
クレヨンやバスには、水分があるので

その部分だけ水をはじいて輪廓がぼやけないので子どもは喜びます。クレヨン



(C)

ダブル画架



(D)

のかわりに、マジックインキでかいて、水えのぐで着色するのもこれと同じ理由で、よい効果をあげます。

ふつう、水えのぐは、のりの顔料が混入されている粉末絵具^{パウダークラカラー}やポスターカラーが便利です。安くあげるためには、泥絵具^{ドロペイン}がよいのですがこれは別に膠液を作る不向きがあります。

水えのぐのための用具は、ニーム皿(5寸×6寸)に一色づつといて、筆は一色につき数本用意します。赤に使う筆を青に入れたりしないことを約束し、服装も作業衣・袖カバー、あるいは袖をまくりあげてからかかります。えのぐと筆のために図のような共同の箱を用意し、ヨーグルトの空びんなどを活用することもよいことです。(図C)

床に新聞紙などを敷いて、その上でかかせてもよいが、(図D)のようなダブル画架を作り、両側から、らくがきをできるように立って描かせると腕が自由に

のびて染にかけます。

ようは、先生がおっくうがらずに、むずかしいのではないかなどと思うまえにとにかくやらせてみることで、子どもたちは大よろこびで夢中になって描くものだといことがわかるでしょうし、クレヨンなどの絵ではみられない生き生きとした絵にまず驚ろかれるでしょう。このような描画環境を充分に整えてやることこそ実は幼児指導の要点であります。

◎クレヨン・パス・色鉛筆などのえ

幼児の絵で最も多く使われている材料はクレヨンです。クレヨンはバスや色鉛筆などと同じく、えのぐが塗るペインティングに對して、描くドローイングの仕事に適した材料です。

幼児の描画は、初期の段階では線描きが主ですから、自由な色で、線を縦横に駆使できるクレヨンが最適で、これは世界中の子どもが使っている材料です。

我國のクレヨンの種類もいろいろあって、選択がむずかしい程ですが、日本工業規格合格品(JISマーク)が①がついているものであれば、一応安心して使えらると思えます。

次にバスはクレヨンより軟かく、重色もよくきくので、ぬるためには適しています。

おそらくバスは日本だけの材料でしょう。

バスは軽くなでただけでは美しい色がないが、それだからといって画面の隅々まで塗らせるというような教え方は希ましくありません。

外国の作品には、色鉛筆で描いた絵が多くみられます。細い線の中に、子ども独自の世界が、実に誠実に表現され、水えのぐのえとは対象的で、幼児の絵が、非常に粗雑になったり、又、新しい刺戟を与える材料としても、時折このような色鉛筆を使用させることはのぞましいことです。(お茶の水女子大学講師)

倉橋記念文庫について

幼児教育の父、倉橋惣三先生を永く記念するため幼児教育に関する図書を集めて倉橋文庫とし、お茶の水女子大学図書館に寄贈して末永く先生の御業績を偲びたいと存じます。左記の要項により多くの方が賛同御拠金下さいますようお願い致します。

なお、御拠金下さいました方々の御芳名は「幼児の教育」誌上に掲載して御厚意を謝し、受領証にかえさせていただきます。

記

拠金 額 一口百円以上

期 日 昭和三十一年二月末日

送金先 東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

倉橋記念文庫係

おひなさま



〈劇 あ そ び〉

堀 合 文 子

幼児の遊びをみると、劇あそびの材料が沢山みられる。

従来劇あそびは、脚本があつて、それにより、劇あそびを進めた。結局幼児を役者にしていたのである。幼児は役者ではない。幼児の劇あそびは幼児の生活の中にあり、幼児の遊びの一つである。したがつて劇の練習も必要とせず、又人にみせるものでない。幼児自身が楽しんでいけばそれでよい。

このような劇あそびは、幼児と共に作りあげなければならぬ。脚本から取材しても、幼児の生活から取材しても、幼児の遊びの中から取材しても、幼児の談話から取材しても、何れにしても幼児と共に進め、幼児と共にたのしみたいものです。（このくわしい事は去年八月号に村井先生の説明があります）

三月三日のひなまつりは男の子も、女の子も、あの優美なおひなさまを飾り、たのしく遊ぶのは、幼い時のたのしい思出の一つにな

るものです。

ひなまつりが近づくくと、一二週前よりひなまつりの主題に入るわけで、話合つつ、おひなさま、びょうぶ、あられ入等々作りはじめます。街でも早くからひなまつりの品々が取揃えられており、子どもたちも心まことに待っておりますが、私共は子どもたちがより以上興味を沸いて又よりよく理解し観察できるべく種々な点、種々な方面で環境を作り、主題をすすめてゆく事はよく御承知の事だと思ひます。

その一つとしてリズム遊びに、おひなさまごっこをして遊びました。はじめはおひなさまの自由表現から入り、分れて、おひなさまを飾ったり、それぞれのおひなさまが音楽にあわせて表現したりして、後で簡単なリズム遊びに発展していったのですが、子どもたちは、段の上の優美なおひなさまになる事はうれしいらしく、子どもたちが段の上のおひなさまにみる夢を満足させ、子どもたちから、

こうたら、ああしたらの注文がでるようになり
ました。結局、この劇あそびは此処より取
材され発展したので、筋も簡単なものです。

(劇あそび集参照)飾る人をおかあさんにきめ
たり、おひなさまがよろこんでそれぞれ踊っ
たり、夜中にねずみが出てきて、おひなさま
をおどろかす所、お父さんが帰ってきておひ
なさまをみるそして皆でたのしく遊ぶ等は、
私が復案を持っていて、リズム遊びから話合
いながら筋を作り上げました。

リズム遊びとして充分にたのしんで、それ
を劇あそびの形に整えたわけで、劇あそびへ
は他の脚本からよりはすぐ入れたわけだが、
リズム遊びのところから一度考えてみまし
う。

○組全体が二人組んで、親王様、お姫様にな
り曲にあわせて表現しながら歩く。

○組全体が三人組んで三人官女になり曲にあ
わせて表現しながら歩く。

○組全体が五人組んで五人囃になり、曲にあ

わせて表現しながら歩く。

○組全体が三人組んで仕丁になり曲にあわせ
て表現しながら歩く。

○組全体が二人組み隨身になり曲にあわせて
表現しながら歩く。

○組全体が、日本人形でもキュービーでも、
西洋人形でも各自好きな人形になり曲にあ
わせて表現しながら歩く。

この時の曲はおひなさまの方は「ひなまつ
り」(エホン唱歌)を使い、お人形の時は「玩
具のマーチ」を使う。

○次に各自好きなものに分れ曲にあわせ自由
に表現する。私の組は年長だったのでその
人数は自分達で自然を考えたり友達同志考
えていたが、年少だと内裏様が幾組もでき
たり、五人囃が七人になるかもしれないが、
はじめはそれでやって後で話合って人数を
知らせる必要がある。交替してする。この

時の曲は、内裏様三人官女は「ひなまつり」。
五人囃は「ものまね」(文部省の幼稚園児の

ための指導書音楽リズム)。仕丁は「いっし
よに仲よく」(前と同じ)隨身は私の即興。
人形は「玩具のマーチ」。

○次はおかあさん、ねずみ三人、おとうさん
花子と太郎をこの他に加え、曲にあわせて
表現する。曲だけで筋をすすめてゆくので、
その間のつなぎは私が話をはさんだ。

例えば、「おひなさまたちは戸棚の中に去
年からずーっとしまわれていましたが、明
日はおひなまつりなので、おかあさんは花
子や太郎とおひなさまを飾りました。」
と話して曲を弾く。子どもたちは自由に飾
る。このようにして私が言葉をはさみ、こ
のリズム遊びをすすめてゆきました。繰返
す度に役は交替しました。

○リズム遊びでは何かものたりなさが出てき
て、子どもたちはやりながら「あ、いたい」
とか「がりがり」とか自然と口ずさんでい
るので、私はそれを取上げ、皆と話合った。

「今ねずみがこんな事をいったり、おひな

さまがこんな事をいった」と持かけて子どもたちとおかあさんは、おとうさんは、と話す言葉を話合う。別にこれでせりふを決めてしまふのではなく、種々と言葉を話合つてこういふ風にも、ああいうふうにも言えると話合うだけで、次の段階となるわけです。

○それぞれの役は自由にその場で好きなように話を入れてする。その言葉はその役の人にかかせる。その人によつて言えない人、わからなくなった人には、私が助けてあげる。

○一応種々と各自が経験したので自分の役というものを決める。自分のすきな役に決めるわけで何人にもなつて困る時はジャンケンなり、くじ引で解決する。

○役がきまつたら自分のお面を作る。表現する時もそうだが、おひなさまの観察という面でもよき材料となり、子どもたちの観察の細かさにおどろかされた程で、あれがな

くてはと、簡単にすまそうとしても、すまされない位うながされてしまいました。

年少組だったらお面の輪廓は先生の方でかき色をぬらせるなど考えたらいと思ひます。

○小道具を話して作つたり揃えたりする。小道具は子どもたちにはむずかしい時は手伝わせる程度で、先生の方で揃えてあげてよい。

子どもたちは役が決りお面もできるとそのものになり、表現だの、言葉など熱心に考えてくれて、友だちのまで批評し教えてくれる人もでてくるようになってきたので、私は私の受持である、演出効果をあげる音楽を種々とプロローグに入れたり、音楽を流したりといふ効果も考えたり、又曲を探さねばならなく、子どもたちに刺戟された子どもたちの熱心さに引つられた形になってしまいました。子どもたちと先生と一体になった形で私はいれしく、たのしかった。勿論子どもたちもた

のしそうちに、劇そのものをたのしんでいました。

子どもたちの生活の中より取材した一例ですが、子どもたちの遊びを一番よく知っている私共が子どもたちと共に作り上げてゆく劇こそ、子どもも先生もたのしいものです。脚本などいりません。子どもたちの中にとびこみ、子どもたちの生活や遊びから劇あそびを見出していくがでしよう。たくさんそここころがっています。私共が小さな小さな劇作家になるのです。

(お茶の水大附属幼稚園)

× × ×
× × ×

北海道の

幼稚園界

「どうして、こんなに幼稚園がふえるんですよ。」

「幼稚園は、もうかるからでないでしょうか。」

と、いう声が巷間に流れているのを耳にするたび、世間というもの、このカン違いや、教育の営利事業化を想はないわけにはいかな
いのは、潔癖すぎるからだろうか。

北海道も、全国の例にもれず、近年著るしい増加をみせている。

明治末期まで 二園

大正末期まで 一〇 "

昭和二十年まで 二六 "

昭和二十二年まで 二七 "

昭和二十四年まで 三一 "

二十二年一園認可、二十三年、二十四の両年にわたり、四園認可であったものが、二十五年には五園、二十六年には一四園の認可をして総計五十となっている。

二十六年は、私ども教育行政にあるものを驚ろかせた年で、に

現況と

その

重野孝三

問題点

わかに認可基準をつくり認可事務の整備を急いだものである。しかも、当時公立二に対し私立は三十六であった。

昭和二十六年に認可した数

一四園

" 二十七 "

一三 "

" 二十八 "

一二 "

" 二十九 "

二六 "

" 三十 "

一九 "

合計(三〇、一二、一現在数) 一二二 "

うち、十二月認可の予定のもの、五園の見込である。一寸考えてみても、なぜ急激に増加したのか、教員は充足できるだろうか、教員の養成はどうだろうか、若しそうでなければ、幼児の教育は重大な危期にさらされるのではないかと思うのは当然であろう。

こうした、急激な増加をみたのは、両親の要求があるという事実を、見のがすことができないが、その要求の真の理由は何であ

るか、ということとは教育者として、充分考察もし、それに対する手も打たなければならないと思はれる。

幼児の教育は、重要であるというのは、ごく一部の人間、即ち教育専門家の信条であつて、両親達にそうした本質がわかつてきたからだとは、必ずしも言い切れないだろう。

また、世界の義務教育に対する考え方が、下の年齢層にさげられつつあるという傾向も、おそらくは両親達には知られていないだろうから、急増の理由とはならない。

吾々は、子供の教育に、盲目的な熱心度を示すという現実がよくみられるが、明治以来の教育にもなつて起つた、国民的信条といつてよいものがある。なにもかも子供の教育によつて、幸福や地位や経済の豊さをかち得ようとする望みである。そして、この学校を出たかは、子供の将来の運命を支配する社会構造になつてゐるのは、どうも変だと思つてもこれが日本の現実の姿であろう。この考え方が、幼児の教育まで、伸びてくるのは極めて自然であつて、幼児に教育を受けさせておけば、お勉強の競争に優位なスタートを切らせるのでないか、何らかのプラスがあるのでないかという、漠とした考で、幼稚園え幼稚園えと殺到し、たまたま、数年前のように、親子もろとも試験があるというので、おくれをとつては一大事とビックリして、無理でも入園させようとするのは、親の心理であらう。

そのほかに、小学校側で、入学前の幼児教育を行つたり、義務教育を幼児まで下げようという先生達の声に刺戟されていることも一つの理由となるであらう。しかし、もっと世俗的に考えを引

下げて、要求の理由をさがしてみると。

1、戦時中に托児所があつたが、幼児の管理に骨を折らないで、仕事の能率があつたから便利だつた。(農村で)

2、幼児達で楽しそうに保育所に通つてゐるが、自分の子供がおくれをとらないだろうかという不安。

3、隣近所の幼児が幼稚園に通つてゐるから。

4、うるさくて仕事の手足まといになる。幼稚園にやるとおやつ代がたすかる。隣の子に負けたくないから。お行儀や言葉がよくなるから。小学校に入つて、とくをするから。天才教育は幼児から。

と、いったような両親の要求が、高まつてゐるが、一方、この声に応じて設立者はどうなつてゐるか。

1、幼児教育だから簡単だろう。施設設備も小資本で事がすむ。

2、幼児の募集に手がいらぬ。はじめるといくらでも集まる。

3、新聞や人のうわさで、モウカルらしいし、安全な投資だ。(個人立幼稚園の動機は大半これに近い理由である)

4、私立保育所は経営費の關係で、やつていけないから幼稚園に切りかえよう。

5、先生の給料が安いから。

6、高等学校卒業の女の子で間に合うから。

みすばらしい理由をあげて、意地悪るい見方でもあるが、いたしかたがない。だが、次のような理由が北海道では大多数であることを報告しておきたい。

7、宗教団体即ち宗教法人の事業として、最も適した事業だか

ら。

8、会社鉱山工場等の厚生施設として（五園、外に幼稚園類似の教育を行っていると思像されるもの二十数ヶ所あり）

9、季節托児所が完備して、幼稚園となったもの。

北海道は、増加の途次にあり、まだまだ、百以上はできる予想であるが、現在のところ園児の募集に苦勞なく、またそのため次のような幼児教育を根本から破かいするものが、現はれていないことは嬉しいことである。

10、天才的バレリーナを幼時より養成するために。

11、ヒバリちゃんのような歌手を天才教育で。

12、いわゆる芸事を幼児よりはじめるために。

こんなものが案外、親の夢をかきたてて、俗受けしやすく、全く弱点に喰い入って害毒を流すことになるので、充分警戒を要することと思はれる。

宗教と幼稚園教育

本道の、幼児教育はキリスト教の布教にともなつて、教会堂ではじめられたものであるが、宗教の布教のための手段でなく、本質的に幼児教育をねらっていたものである。その後、各宗教団体は独自性のある幼稚園を設立しているが、正しい幼児教育が行はれていないことは否定できない。のみならずゆきとどいた教師の愛情、献身的な精神等このましい心づかいがみられている。ねがはくば、更に心理学的に科学的に、努力を傾倒されるならば、完べきに近いのがみられるであろう。昭和二十六年十二月三十一日

現在の全国宗教主義でたてられている、幼稚園数は、

神道系 四五

仏教系 四一〇

基督教系 旧 一八四

基督教系 新 五七八

合計 一二二七

北海道宗教系幼稚園（昭和三十年十二月一日現在）

神道系 三

仏教系 四二

内、東本願寺一八、西本願寺一一、浄土宗六、真言三、日

蓮三、聯合一

基督教系 旧 二四

基督教系 新 三六

宗教に關係しないもの 二〇

公私立幼稚園一二五のうち、八四％は宗教団体の設立するもので、この数字にはいろいろな意味がふくまれている。

別な見方から、法人と個人業の分類別にながめてみると、

公立 四

学校法人 一七（宗教主義幼稚園をふくむ）

財団法人 一

宗教法人 八七（見込数）

会社法人 五

個人 一二

北海道は、開拓されて九十年であるが、外人によってキリスト

教系の幼稚園が設立されたのは、相当古い年代で、五十年配の卒業生をもっているものがある。明治四十年になって、小樽市に仏教系のものが設立された。

1、幼児で信者になるとか信仰を強制されるとかいうことはないが、二十才代三十才代四十才五十才にいたるまで入信の動機になっているものが意外に多いことに驚くものがあり、もっと深く調べてみると興味深い数字が現はれるのでないか。

2、園児は、両親の宗教と関係のあるところが選ばれる。

3、都市で、幼稚園の適地としてわずかに残されている土地は、寺院教会の境内地のみといえる位、草花竹木の自然環境が揃っている。教育環境としては絶対的に優位に立っている。

4、宗教団体の、幼稚園は施設設備が急速度に改善されて、伸びているのは、信者の応援ということもあると考えられる。

5、古いからにたてこもり、新しい教育のとり入れ方がおそいことと、科学的方面の設備や教育に手ぬかりがでやすいこととは、特に注意しなければならぬ。

6、会社、工場等の厚生施設として、M炭山の一例を紹介したいと思う。住宅の中心が広いグラウンドになっており、その一角に幼稚園が建てられて、毎日二時頃に幼児が帰ると、小学校児童次に中学高校という順で生徒が、ここに集まって備え付けられた学習参考書を引出して、予習復習がはじめられ、終るとグラウンドえ、備品の運動具を持ち出して遊ぶことになっている。この辺一帯は石狩炭田で多くの会社の炭山が並んでいるが、不良少年少女もここから幾多現はれてタイホされ

ている。しかし、おかしいことにこのM炭山からは一人のタイホ者も出ないと、警察では首をかしげているのは、興味のもてる材料でないかと思う。

教員養成と教育の実際

結婚までという助教諭が、八割近い率を占めることは由々しい問題で、その上保育料六百円平均で、東京都の半額になり、教員の給与も小学校に比較して、甚だしい差異をみせているのは、これもまた厄介な問題をもっている。

従って、短大の保育科とか教員の養成所に入學するものが、極めて少いということになっている。本道の幼稚園は、非常にすぐれた少数の、しかも経験の古い教諭達で、助教諭達を引上げてかろうじて幼児教育を行っている現状で、危険な線をはらんでいて、一歩あやまると托児所と化すおそれなしといえない。

何としても、専門教育をうけた教員が多数ほしいものである。

幼児の骨格形成がわるく、クル病と認められるものが多い。北海道の幼稚園は、食物と日光浴には特別の注意を払はなければならぬ。ことに冬の教育は問題で、しめ切った室内で換気も考えない幼稚園があったとすれば、何のための教育かと言いたい位で、本州の暖い地方が羨ましい次第である。

自然観察の設備が少く、お遊びの道具が少く、しかもこれらが不整地のままになっていることは、これまた軽く見るわけにいかないではないか。北国人特有のネバリとキマジメさで、困難を克服してゆきたいものである。

(北海道庁総務部人事課)

幼児の運動能力の調査

安藤 寿美江

広い意味の健康教育或は健康指導には当然体育もはいるべきであると思われるのであるが、従来の習慣上一度区別されているようである。そしていわゆる健康指導、つまり消極的な衛生習慣には相当な関心もたれ、手を洗うこと、歯を磨くこと、或は肝油をのむことなどは、多くの園に実施され、その成果は大分あげられているようである。ところが、積極的な体育については、幼児は養護の時代であるから体力増進までは余り考えないでもよいであろうというので、漠然とあそびの中でその効果を期待しているというのが、一般の状態である。

しかし、これによいであろうか。五才前後の幼児は非常に活動的で、殆んど坐らずに立ち、歩くよりは走り、一時も静かにせず、つぎの事を知らない精力を無謀に費す。というのが普通の状態である。こうした旺盛な活動力を放任し、消極的な健康指導のみに力を注ぐことはまことに片手落ちである。

幼児の円満な身体発達を促すには、車の両輪のようにこれらの両面を考えつつ指導に当らなければ、正しい健康教育は行えないであろう。

こうした観点から、当園では従来余り行われていなかった体育的な面につき確実な基礎の上に立って、幼児の発達に即した適切な指導を行いたい考えから、生ず運動能力の調査を行ったのである。そして五才児の実態をつかむため、その前後の年令の幼児についても調査したわけである。

一、運動能力調査の方法

運動の基礎的技能つまり一般的運動能力を調査するため、さきに児童母性研究会で行った次の六種目を取り、昭和二十七年より三年間連続して調査を行ったのである。この他にも最近教育大学の松田先生を中心として研究されつつある五つの運動の因子(平衡性・柔軟性・動力・筋力・協応性)に基いた種目による分析的な調査も行ったのであるが、今回は紙面の都合上省略する。

- (1) 二十五米疾走 二十五米の直線コースを走る時間をはかる。
- (2) 立幅跳 両脚を揃えて前方へとび、その距離をはかる。
- (3) 投てき 重さ一五〇互の布製砂入ボールを投げ、その距離をみる。

(1) 25 m 疾走 (秒)

年 度	年 令		4 歳		5 歳		6 歳	
	性別		男	女	男	女	男	女
	要項	数均差						
昭二十七年 和	人平	数均差	11	11	15	15	4	3
	標準	偏差	7.49	7.91	6.38	6.84	6.15	6.4
			0.44	1.26	0.5	0.43	0.43	0.4
同二十八年	人平	数均差	11	12	15	21	5	5
	標準	偏差	7.4	8.0	6.92	6.75	6.00	6.66
			0.93	0.76	0.73	0.93	5.92	0.23
同二十九年	人平	数均差	25	24	13	15	38	38
	標準	偏差	7.26	7.76	6.21	7.39	5.77	6.02
			0.65	0.96	0.51	0.24	0.41	2.01
児童母性 研究会	人平	数均差	138	117	345	315	217	211
	標準	偏差	7.79	8.27	6.59	7.20	6.21	6.85
			1.20	1.34	0.83	1.07	0.66	0.88

(2) 立幅跳 (cm)

年 度	年 令		4 歳		5 歳		6 歳	
	性別		男	女	男	女	男	女
	要項	数均差						
昭二十七年 和	人平	数均差	11	16	16	11	4	3
	標準	偏差	92.09	99.5	107.43	99.5	105.75	106.00
			14.50	14.26	12.34	14.55	8.85	9.93
同二十八年	人平	数均差	12	12	16	21	5	5
	標準	偏差	90.42	79.16	72.12	93.33	112.00	100.00
			12.08	11.60	29.90	13.95	2.45	4.47
同二十九年	人平	数均差	24	28	13	15	40	40
	標準	偏差	84.25	79.1	104.62	90.00	116.45	112.85
			13.03	12.57	11.18	13.03	13.96	18.12
児童母性 研究会	人平	数均差	135	119	346	318	218	212
	標準	偏差	89.2	84.2	105.1	97.9	115.7	105.6
			18.0	16.8	19.8	18.9	19.1	19.7

(3) 投てき (m)

年 度	年 令		4 歳		5 歳		6 歳	
	性別		男	女	男	女	男	女
	要項	数均差						
昭二十七年 和	人平	数均差	11	12	14	14	4	3
	標準	偏差	4.78	2.99	7.85	3.78	6.87	4.40
			1.18	0.78	2.57	0.74	1.94	0.43
同二十八年	人平	数均差	11	12	16	21	5	5
	標準	偏差	6.91	3.74	6.75	4.33	10.60	4.60
			2.02	10.89	2.33	1.22	0.48	0.48
同二十九年	人平	数均差	26	26	15	15	40	41
	標準	偏差	5.97	3.47	9.31	3.91	10.50	5.57
			1.90	0.97	2.49	1.12	3.07	1.41
児童母性 研究会	人平	数均差	132	110	334	316	212	216
	標準	偏差	4.83	3.39	7.21	4.40	9.66	5.50
			1.49	0.90	2.25	1.29	2.79	1.35

(4) 荷重疾走 Ⅱ 重さ五疋の砂袋をかかえて一〇米の距離を走る時間をはかる。
 (5) 懸垂 Ⅱ 鉄棒に肘をのばして懸垂し、がまんできなくなつて手を離すまでの時間をみる。
 (6) 片跳連続跳 Ⅱ 片脚で二十五米の直線コースをとび、出発線からとべなくなった地点までの距離をはかる。二十五米の最後の

地点まで行った者は足を下さず、そのまま折返し続ける。
 二、調査の結果 (次表)
 三、当園幼児の運動能力の特質
 調査の結果を先ず当園幼児のみについて考察すると、次のような点があげられる。
 (1) 二十五米・立市跳・荷重疾走については、個人差がはげしくない。
 (2) 投てき・片脚跳は個人差が多い。
 (3) 特に投てきには男女差が多く、男児が断然すぐれている。
 (4) 全般に男児の能力がまさっている。
 また当園の三年間の平均値と、児童母性研究会の平均値とをグラフによって比較すると、図の通りである。
 後掲のグラフで明らかのように、児童母性

(4) 荷重疾走(秒)

年 度	年令		4 歳		5 歳		6 歳	
	性別		男	女	男	女	男	女
	要項							
昭二十七年 和	人平	数均差	10	11	16	15	4	3
	標準	偏差	4.47	4.01	3.66	3.40	3.6	3.8
同二十八年	人平	数均差	12	12	16	21	5	5
	標準	偏差	4.06	0.66	4.37	4.02	3.94	4.06
同二十九年	人平	数均差	23	28	14	15	40	41
	標準	偏差	4.24	4.78	3.91	4.53	3.46	3.69
児童研究会 母性会	人平	数均差	128	117	319	313	198	207
	標準	偏差	4.52	4.74	3.85	4.16	3.51	3.78
			0.81	0.91	0.60	0.68	0.48	0.49

(5) 懸垂(秒)

年 度	年令		4 歳		5 歳		6 歳	
	性別		男	女	男	女	男	女
	要項							
昭二十七年 和	人平	数均差	12	10	15	17	4	3
	標準	偏差	21.33	53.30	52.56	60.41	61.00	62.33
同二十八年	人平	数均差	11	12	16	18	4	5
	標準	偏差	44.00	57.75	37.13	43.34	36.5	27.94
同二十九年	人平	数均差	27	27	14	14	39	38
	標準	偏差	41.22	30.66	79.36	57.71	70.77	61.28
児童研究会 母性会	人平	数均差	139	125	326	314	194	206
	標準	偏差	60.48	67.76	80.6	73.6	119.2	120.48
			40.10	42.80	59.6	62.60	80.2	70.00

(6) 片脚跳(m)

年 度	年令		4 歳		5 歳		6 歳	
	性別		男	女	男	女	男	女
	要項							
昭二十七年 和	人平	数均差	11	10	15	15	2	3
	標準	偏差	20.60	34.70	42.13	50.86	59.00	57.66
同二十八年	人平	数均差	12	12	16	21	5	5
	標準	偏差	20.68	30.58	30.00	49.47	39.40	63.50
同二十九年	人平	数均差	27	27	14	15	40	41
	標準	偏差	24.00	26.13	43.96	42.60	66.05	64.05
児童研究会 母性会	人平	数均差	126	114	326	301	206	200
	標準	偏差	26.05	29.65	49.55	46.75	77.45	64.77
			17.20	14.15	23.80	23.25	34.50	24.10

研究会と当園とを比較すると、次のような点が考察される。

- (1) 当園は二十五米疾走においては、男女共にすぐれている。
- (2) 投てきは両方とも男女差が甚しい。当園の男児は先方より優れているが、女児は劣っている。
- (3) 懸垂において当園児は非常に劣っている。

(4) 片脚跳も全般に劣っている。

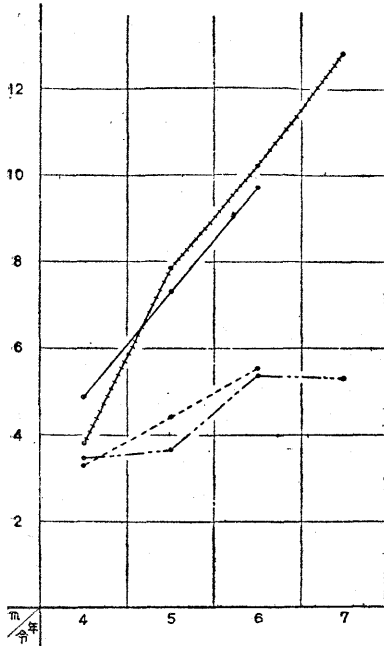
当園の幼児が二十五米疾走、つまり走りこにすぐれている原因は、都の幼児の平均とくらべ、身長がすぐれていることと、もう一つ、調査の場合、一人だけを走らせず、二人ずつにして、その競争心をかりたためたため結果()と、この二つの点が考えられる。

とにかく、この六つの種目の結果を通して

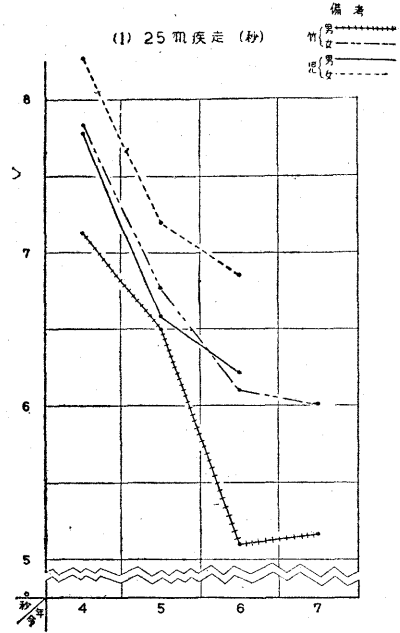
全般的に考えられることは、懸垂、片脚跳などの弱いことから、当園幼児は総合的にみて筋力(持久力)が非常に弱い。

という実態をつかみ得たわけである。筋力や持久力の面が欠けているのは、都市のこどもの通弊であるといわれているが、それが当園幼児にもはっきり現われていること

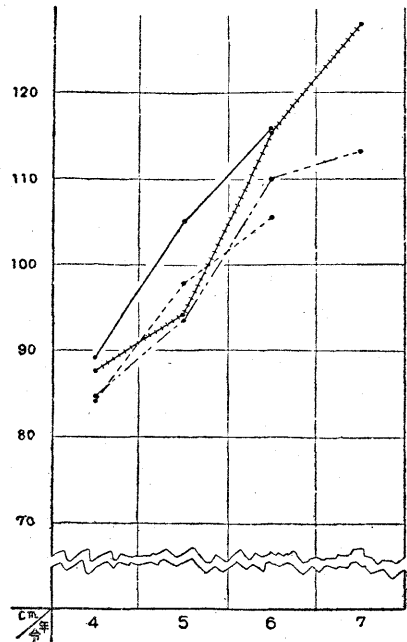
(3) 投てき



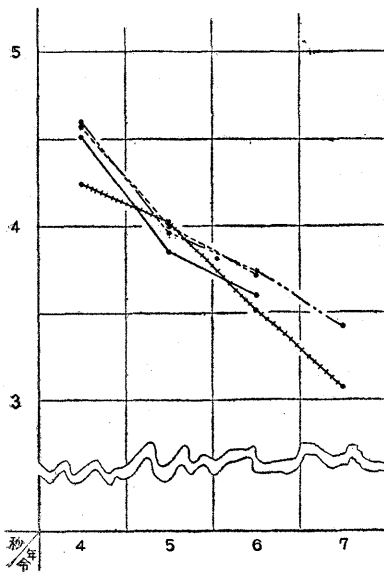
(1) 25m 疾走 (秒)



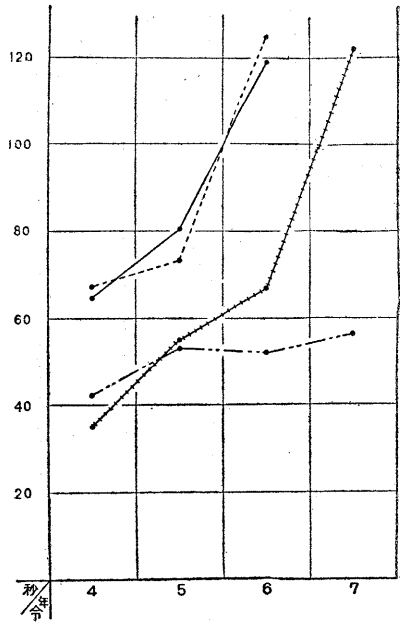
(2) 立幅跳 (cm)



(4) 荷重疾走 (秒)



(5) 懸垂



がわかったわけである。その原因については、当園が運動能力調査と同時にを行った各家庭における。

四季折々の幼児の時間的生活調査及び

室内や庭の広さ

あそび場所

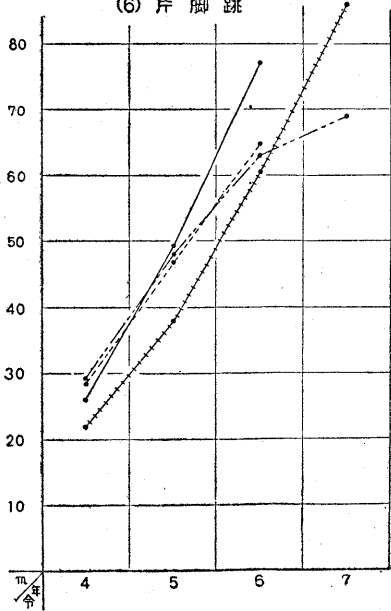
あそびの種類

遊具・玩具

などの環境調査によってさぐるることができる。

つまり、都市があるために、あそび場所が恵まれず、一方知的教育に偏し易い家庭が多いため、いきおい静かな室内、あそびに傾き、活動的なあそびが少くなる。また一面、比較

(6) 片脚跳



的恵まれた家庭が多いため、毎日の生活に依頼心が助長し易い状態であり、従って意志力に欠ける傾向である。

かれらの点が、筋力・持久力といった運動能力の中でも特に意志力に関係をもつ種目に欠陥として現われてきたのであろうと推察されるのである。

とにかく、三年間以上の種目について、幼児が楽しみつつ、全力を出して、一生懸命にするよう細心の注意をはらってそうした雰囲気醸成に工夫や苦心を重ねながら調査を行ったのである。この結果は私どもの園の実態

であって、五才児の全般的、標準的なデータとしてはいい得ないであろう。今後いろいろな地域、多くの幼児の調査が累積されて、日本の幼児の基準のつくられることを望んでやまない。しかし、私どもは、日々の幼児の活動的な生活の指導の面で、個人的に、また全体的に、或は体育的な施設についても大きな資料の与えられたことを、この上ない喜びとしている。

(本稿にその一部をのせた幼児の運動能力の発達及びその指導の詳細については、当園発行の文部省実験幼稚園研究発表要項第一・二・三年次を参照されたい。尚、三年間の研究の集録は近く文部省から発行される豫定である)

五才児における言語発達 とその指導について



角尾 和子

幼児の言語指導すなわち、話し方、聞き方に関する教育をどのようにしたらよいか。できれば言語指導の系統を考えてみたい。これが本研究の目的である。

大正年間の中頃から我が国にも、幼児語兒童語の研究熱がさかんとなり、幼児の言語生活の実態をとらえた研究物がたくさん残されている。集めることが出来た文献だけでも次のようなものがある。

(大正七年 東京成城小学校 沢柳氏)

(大正十二年 長野県松本女子師範附属小学校 上条茂氏)

(昭和九年 岡山師範附属小学校)

森脇、牛島氏のものがあった。また両氏の幼児の文章の構造についての研究が残されている。

また角度を変えた研究として昭和十四年にわたる阪本一郎氏の兒童読物にあらわれた語を集めて頻度別に五段階五〇〇語の幼年基本語いを定めたもの、それから柳田国男氏の全国共通に幼児が言葉をおぼえる順序があるとこの考えから、集録分類された『分類兒童語い』という研究が残されている。これらの研究の結果から一応幼児教育者が幼児に向けて話す語いはこの程度にということがきめられる。

(昭和十四年 長野師範学校男子部附属国民学校)

などは何れも就学したばかりの一年生を観察して、どれだけの理解語い・使用語いをもつかという調査であった。この他に幼児語いの発達時間調査としては愛育研究所に於ける

しかし毎日現場で動きまわる幼児を相手にして言語指導を考えると、単語をとりたてての分析研究よりも、生きて働く語いに意味があるように考えた。

幼児の心の機能の発達とも関係ずけて、幼児を受けもちなから出来る方法で動く幼児の言語生活をとらえ、そこから結論へ導ききたいと努力した。

しかし三年という月日はただ一人で進めていく研究にとって長い月日ではない上に、分野が広いために研究が何れも部分に止まってしまったことは残念なことであった。ここでは紙面も限られているので、この度の文部省実験幼稚園研究発表会の報告の概要を述べて責めて果したいと思う。

一、問題の所在

○幼児の生活に滲みこむ、幼児に適した言葉について調べたい。

○従来おこなわれて来た教師の勤によるのではなく、幼児の各年令段階で理解できる内容はどんなものでありまたどんな程度であるか。

○言語習得に形式があるだろうか。あればそれを調べて指導上の参考にした。

○幼児の言語機能はどのような能力をもっているか。

○幼児の文字指導についてはどうしたらよいか。

このような問題を解明するために、次のように焦点をしばって考えていった。

二、話の理解について

教師が与える「お話」を、どのくらいおぼえて復唱することができるか。これを年長組のグループと年少組のグループと二組対比して調べることによって、発達的な理解度の差異をさぐることにした。

集団で話をきくということは幼児にとって難しいことである。単に幼児の基本語いの範ちゅうだけでない、他の要素が加わってきている。そこで記憶と理解とを合させたままの測定はむじゅんするか、グループ全体を処理するためにはこの方法以外になかったので、話を記憶させ再生する量と質を吟味して集計する方法をとった。

これを前後四回行った結果

○四才児と五才児の間には、はっきりと相異がみられる。

○紙芝居と「お話」とを比べると、視覚に訴

えた効果は四才児の方が五才児より大きいものがある。

○集団生活を年々つづけると、この場合の話の理解度が一年半つづけているグループと近ずいてくる。集団生活の話の理解の面に於ける効果というべきであろうか。

○放送劇は瞬間的な楽しさはあるらしいが、

年少者程、頭の中に画かれるイメージが断片的であり、つながりがないようである。

○事件の核心、あるいは登場人物が活躍する

場面をまず話し出す例が多い。そして何故そうなったかと理由つけて話をするものほど幼児の場合に理解度が高いようである。

すなわち帰納的な推理はこの場合まだ芽ば

えがみられないというべきであらうか。

三、幼児の言語表現の種々相

(1)創作

子どもたちのつくる話を記録してみた。

同じ話を二度させて記録するには、紙芝居のようにしくむとよい。子どもの創作

による話の中では、大人が与えている時代ものの童話で満ちたりないのみをみた

しているののみつけた。例えば現実的な物のみかた、科学的な知識の応用など。

(2)行動の報告

子どもの自由な活動の状態を観察し記録しておき『今日あさから何をして遊んでいたか話して下さい』という。これはよく経験話をさせるときに用いる質問であるが、考えねばならないことが含んでいた。

それは面白そうに(観察者)遊んでいたときのこと程子どもは忘れていたということである。遊びの間子どもは何も意識しないで楽しんでいのではないだろうか。そこで行動報告をもって言語指導の「こまにする」ということは、あまりにも形式的であるといわなければならぬ。

(3)表現の複雑度についての考察

長々ととりとめもないおしゃべりをする子がある。またポツンポツンとしかしゃべらぬ子どももある。どちらも用は足りるが、このこともたちの話の複雑さの度合をはかる物指しとしてこんなことを考えてみた。

・絵をみせて話をさせる。(CATの十枚の図版を用いた)

・理由の「から」を伴なう、従属文の頻数

を五才児二十名の各幼児について調べてみた処、

絵をみてつくった話の量の多い子どもでも然も智能的にすぐれている子どもにも頻数が多く、おしゃべりでも智能が低いもの、智能的にすぐれていても口の重い子どもには十枚の絵に対しての話の中に「理由のから」は一つもみられないという結果を示した。

事例は少ないが、形容詞の使用の多少と共に、言語表現の発達の程度をきめる尺度になるのではないかと思われる。

(4) 対話及び会話について

四五才の子どもたちは二人でなら互に意志の通じあいを言葉によって行なうことができる。三人以上の子どもたちは集まって何か一つことについて話をしていような形はしていても、会話の形態にはなっていないようである。

そこで教師が仲立ちとなつての民主的な会話の形が充分育てられる必要があると思われる。

(5) 伝達

幼児は家庭への伝達事項をどの程度確か

に伝えているだろうか。そんなことの一つの考察法として、

ローラースケートは

- ・あぶないから買ってはいけない。
- ・何故かというところぶと頭の骨がわるからなどの理由。
- ・中学生になったらやってもよい。
- ・その場合も道路でない適当な場所である。

と話して帰し、三日後にどんな報告をしたか父兄に記録してもらった。

結果を整理してみると、男子は八五%、女子は五六%完全に報告していた。

そして男子の中には「中学に行ったら買ってもらいなさいといった」と自分の希望を加えて報告しているのみみられた。理解できて子ども興味の深さの方向によって、こんなに伝達のしかたがちがうところがでてくるようである。

このあと読字指導の問題を含めて、言語指導の具体的な目標、カリキュラムの問題が残るのであるが、長くなるので一応筆をおく。

近刊おしらせ

広島大学教授 莊司雅子著

フレールの教育学

付頁400
カバー540
本判価
製本540
上A定

東京学芸大学附属竹早小学校教諭 渡辺茂江 共著
東京学芸大学附属幼稚園教諭 渡安藤寿美

保育のためのうたとリズム

めだかのくに

付頁200
装60
麗判価
美B予5

株式会社 フレール館

近刊おしらせ

			ド	
			イ	
			ツ	
	平			
	井			
	信	便		
	義	り		

私は生活にもすっかり慣れて毎日楽しい日を送っております。小児科のみで三百床もある病院なので実にさまざまな病気を見ることができ、市の医者として登録されましたので診療もしております。但し内地とちがう点は八時から十三時、次いで四時間の昼休みがあって十七時から十九時が勤務時間ということです。昼は下宿に帰ってゆっくり休養を取っております。夜は、と申し上げたいのですが、午前が十三時までで、十九時はまだ午後に属します。ラジオなどで七時半頃から Abend Musik

(夕べの音楽)が始まりますし、人に招待されるのも八時頃から十二時頃までです。従ってお昼寝はどうしても必要なものでしょう。商店も午後一時から三時まで(戸をしめている家が多く、買物にはしばしば不自由をいたします。そして七時までビツタリ終えてしまいますから、三時から夕方までは買物がしばしば混雑いたします。そして私の十七時から十九時はおおむね図書館におります。

病院には一人 Kindergartenin (保母) が専属にいます。Frau Widuskel (ウィックスケル夫人) という人ですが、二、三歳以上の子供たちを机の廻りに集めて切紙をしたりし、藤細工を教えたり積木を積んだりして遊んでやっておりますが、何しろ学童もおり、中学生もいるといった具合でまとまったカリキュラムは立っていないといっていました。然し病院専属に Kindergartenin においては非常に大切なことです。もう少し医者とよく連絡がとれてカリキュラムが立てられたらと思いますが、内地の多くの医者の方は診断とか治療ばかりに興味をもって、教育には余り関心が

ないようです。実はその人の紹介で、先日市立の Kindergarten (幼稚園) にいってみました。Kindergarten といっても、市立のものは全部日本の保育所に相当します。フランクフルトだけで(人口六十万の都市ですが)廿数カ所、一カ所に大体六、七十名の子供がおります中、三歳から預っていました。Frau Hoegel さんが一時間わたくしに案内と説明をしてくれましたが、相変らず恩物を一から六まで使っております他、アメリカ流の合成樹脂の積木を見せてくれて、多少お得意そうでした。市立の Kindergarten は従って朝七時から十七時乃至十八時まで、子供を預ることにあります。但し、教会附属の幼稚園など Privat-Kindergarten では午後一、二時の所もあるが、Frau Hoegel さんは、よく知らないといっていました。日本のように幼稚園協会などというものはないといっていましたし、キンダーブックのようなよい雑誌は子供に与えておりません。但し Kindergartenin 向きの月刊雑誌には "Spiel und Erziehung" というのが一九五四年の八月から発行されていますが、そ

の他は日本のように先生方が雑誌から勉強する機会は少いようです。その雑誌の内容の一部を御紹介してみますと、「子供の目で社会的行動の発達をみよう」「病児の遊戯と作業について」「幼稚園での人形遊び」「子供の神経症」「子供の栄養」など、わが国のものと内容は余り変りがありません。それで一マルク八十ペニヒですから、わが国の約倍に当りましょうか。然し物価

が大体二、三倍ですから、それも止むを得ないでしょう。(大きさはキンダーブック版三十頁)その幼稚園は私の下宿の近くです。時々訪問しようと思います。Frau Hugelさんも日本の幼稚園について知りたがっていましたので、この次には写真を見せる約束をしました。

ドイツでは Kindergarten という言葉が日本の幼稚園でもあり、保育所でもあると

表紙について

堀 文 子

私は子供を持っていないものですから、一層子供に強い関心と夢をよせるのかもわかりませんが、凡そ子供の持っている美しさ、かわいさ、だけをよせ集めて、その醜悪さや、粗暴さや、吾が子への執念の苦しさとような様な気持を持たないで、私自身、心の中で子供の持つ一番美しい面と自分のあこがれとを勝手に結びつけ、組合わして居るのでしよう。そんな訳ですから、私の描く子供は多少生き生きと暴れまわっている現実の子供とはかけ離れているかも知れません。表紙の絵は、その私の大好きな子供と花を題材にして温かく、やわらかく、きよらかな気持を現わそうと致しました。女の子と花の持つ限りなく豊富な色と感情を二つの色におし込めて見た訳ですが、印刷になった時も皆様に私の幻想が幾らかでも感じて頂けたらと存じます。

いう点、これから時々御報告申し上げる中で、御留意下さるよう。両者の教育制度も全く同一ケースです。

何か Frau Hugel さんにおききになりたいことがありますら、どうぞ御手紙をお寄せ下さい。きいて参りましょう。

(十一月二日 午後五時)

新

刊

日本女子大学教授 愛育研究所食養部長
医学博士 武藤静子 著

栄養学の基礎から給食まで

A 5 判・208 頁
定価 250 円 丁 24

株式会社 フレーベル館

養 栄 の 児 幼



食物によって子供を健康にすることができたらうか

武 藤 静 子

ここに一人の子供が誕生する。体重が三疋身長が五〇糎。うぶ毛につつまれ、乳をのむ時以外はおとなしくねむりつづけている。笑いもせず、はじめは眼さえみえない。勿論歯は一本もないし、泉門も開いている。それが一年経った時にはどうであらう。

体重は生れた時の約三倍になり、身長は約一・五倍になっている。泉門も閉ぢ、真珠の様な歯が上下に出揃っている。筋肉は発達し這ったり、歩いたりする事が出来るようになり、又乳以外の色々の食物をたべるようになってきている。片言をしゃべり、色々の精神活動も営むようになる。

更に之から四年経った時の事を考えてみよう。この間に体重は生れた時の約五倍となり身長は約二倍になる。即ち、はじめの一年間の速かな発育の速度からみるとこの四年間の発育速度はかなりゆっくりしてはいるが、それでも尙、身体発育は一步步すすめられている。頭部よりも四肢の発達が著しいので、乳児時代にくらべて身体全体に対する頭部の比率が少くなる。この時までには、既に二十

枚の乳歯が出揃い、そろそろ永久歯が顔を出す準備をはじめめる。一方この間の運動機能や精神作用の発達は驚くばかりで、かなり複雑な動作も出来るようになるし、物をまなびとる事も早く、又種々の複雑な感情も芽生えて来る。

こうして更に学童期を経、思春青年期をすぎ、生れてから二〇年後には一個の成人として完成された身体をもって、又養われた種々の能力をもってこの世界に生活してゆくようになる。

之等の過程を成長発育とよんでいるがこの成長発育の根源はどこにあるのであらうか。

例えば身長がふえると云う事は骨格発育の結果であつて、体の中へカルシウムや磷が蓄積されたことを意味している。同様にして体重がふえるのは血液で筋肉や歯や種々の臓器が発育しているからでこの為には多量の水分と共に蛋白質や塩類又脂肪が貯積されている。又運動機能や精神作用の発達は脳や神経繊維の発達を意味し更にその成分組成にも変化が起っているにちがいない。之等の凡ゆる作業

にはエネルギーが必要であり、このエネルギーは糖質とか脂質、蛋白質などによって供給される。又之等の凡ての過程が滞りなくすすんでいけるのは、身体内部で各種のレギュレーターが作用しているからであるがレギュレーターとしては蛋白質、ミネラル、ビタミン類、ホルモン類をあげる事が出来る。

こう考えてみると一人の子供がこの世に生をうけて身体的に又精神的に一応の完成をみるまでには実に色々な成分が体内に蓄積し、或は作用し、又消耗されている。之等の成分の凡て(酸素を除いて)が毎日の食物から供給されている事は論をまたない。私達が食物としてとり入れた材料の中から、身体は先づ不用なものや有害なものを腸で選別して必要なものだけを真の体内に吸収する。体の中では更に之を選別して、材料によってその送り先をちがはせる。あるものは骨へ送られ、あるものは筋肉、あるものは脳へとそれぞれの場所に必要なものが、送り込まれる。もしも入れれた食物の中に、ある臓器が必要とされている成分が含まれていなかったり、或は不

足していたとしたらどうであらう。子供から成人への直線コースは早速障碍され始める。どんな成分が不足しているか、或はどの程度に不足しているか、或はその不足が発育のどの時代に起っているか、不足がどのくらいの間隔つづいていかなどによって、その障碍の形、程度はちがってくるが、とにかく、食物中の成分の過不足によって、多種多様の発育障碍の起って来る事は、事実である。

然し、ずいぶんよいかげんな、でたらめな食生活をしていても、誰でも一応滞りなく成人するように見える。そうしてみると、大たいよいかげんに食物をえらんでも体にとって必要な成分は、それらの食物の中に含まれているのではないだらうかと云うような事も考えられない事はない。実際自然の恵みはあたり一面に充ちあふれている。乳児に与えられる唯一つの母乳は乳児の体内の凡ての器官が要求する凡ゆる種類の成分を丁度程よく含んでいる。メーシと云う母子栄養の大家が世界中でなされた多くの人の母乳に関する研究を集めた成績のほんの一部を参考まで引

用してみると蛋白質は乳一〇〇グラム中に一・二グラム含まれているが、この蛋白質には三種あり、更に細かくその構成分子であるアミノ酸と云うものに分けてみると二〇種以上になる。脂質は、三・八グラムほど含まれているが、之もその構成分子である脂肪酸に分けてみると二〇種以上になる。ミネラルは〇・一二グラムと云う少量ではあるがここに含まれている要素を数えてみるとカルシウムから始まって三〇に近い要素があげられている。ビタミンにしても水にとけるもの、脂肪にとけるものをおりませて二〇種に達している。エネルギー源としては既にあげた蛋白質と脂肪のほかに乳糖が七・〇グラムほど含まれている。この様に人生のスタートに与えられる母乳を調べてみると、子供の体の複雑な要求に対して充分答えられるようにあの簡単にみる白い液体の中に実に複雑な成分をとかし込んでいる。私達はだまってこの乳を充分に乳児に与えていけば、それで事はすむ。しかし、一たん母乳をはなれて牛乳となると事はそう簡単にゆかない。牛乳は他の多く

の食品にくらべると遙かに総合的で母乳にとらず種々の成分を含んでいるが、乳児にとって、ある成分は：例えば蛋白質やミネラル：多すぎ：ある成分は：乳糖、鉄、ビタミンなど：少なすぎる。そうするともう牛乳だけでは乳児の発育は順調に進まないで、人工栄養の時には乳をうすめたり、他の成分を補ったりしなければならぬ事は御承知の通りである。まして乳以外の他の食品となるときこの成分のアンバランスは更にはなはだしくなる。例えば、米や麦は殆んど糖質の塊であるし、魚や肉は大体蛋白質のみから成っている。植物油やバターは殆んど純粹の油脂であるし、野菜や果物は、大体ミネラルやビタミンのみを供給する。この様にそれぞれ異った組成をもっている食物でもって子供の体が要求している成分を過不足なく供給してゆかなければならないとなると、之は決してそう簡単な事ではない。そして又文化が進むと共に食物を精製する傾向が強くなっており、之は更に栄養問題を複雑にする。

第一子供の体が一体どのような成分を要求

しているのかと云う事を知らなければならぬし、又それらの成分をどのくらい必要とするのかと云う事をみななければならぬ。この量は又子供の年齢によっても性によってもちがうであらう。一方、その様な子供の体が要求している成分がどんな食物に含まれているのか、更にどの程度に含まれているのかと云う事も知らなければならぬ。又、実際に之を子供に与える時にはどんな調理法をしてどんな与え方をしたら、その食物中の成分が最も有効に利用されるかと云う事も重要な問題になって来る。

子供の発育を全うするには結局その食物によつて発育に必要な成分を供給してゆかねばならぬ事は、明かになったが、実際問題として食物のとり方が正しくなかつた為らに発育が障碍されたと云うような実例があるであらうか、

ここで一〇人の子供が誕生したとする。体重はどの子も約三瓩、身長は約五〇釐、二十年後に同じその一〇人を集めて、身長や体重ばかりでなく生菌や虫菌の状況、一般の健康

状態、身体的、精神的機能を比較してみたらそれぞれの間にその差の大きいのに驚かされるであらう。之が私達成人一人一人のちがひである。ある人はもうここまで到達する前に死んでいるかも知れない、ある人は結核のに病床横わっているかも知れない。ある人は健康にちきはれるばかりの生活をしているであらう。勿論これらの結果には栄養外の内的及び外的因子も大いに関係している事は、勿論であるが、二十年間の発育期間に於ける食物のとり方の良否が之に密接に関係している事を見逃す事は出来ない。殊に胎生時代及び就学以前に誤つた又は不足した栄養を与えられた場合は、その発育や健康に対する影響は大きいと云う事を、最近の国民栄養調査の結果が裏書きしている。即ち、昭和十四年から、二十四年までの日本の食糧不足の甚しい間に誕生を迎え、幼児時代を過した子供達は終戦後十年の今以つて、そして他の発育期の子供達はみんなその食糧不足時代の影響を脱し切っている今以つて尙、その発育のおくれをとり返せないでいると云うのである。

發育する子供達にとってその食物がどんなに重要な役割を果しているかと云う事は、もう繰返す必要はないのであるが、さてそれでは、どの様な栄養分をどのくらい与えたらよいか、又それをどんな与え方をしたらよいかと云う事になると実際にはまだまだ今までの研究に不備な点が多い。殊にそれが、乳児期をすぎ、しかもまだ学令に達しない即ち、幼

児期の栄養に関する研究は日本ばかりでなく世界的に少いようである。之は決して幼児期の栄養が乳児期や学令期や成人の栄養にくらべて重要性が少いからなのではない。乳児期の栄養に関しては、小児科の分野で全力をあげて研究がなされて来、現になされつつあるこれは、母乳をとりあげられてしまった乳児にとって焦眉の問題であるからである。それに研究も比較的しやすいと云うのは自分で勝手にあちこち歩きまわったりつまみぐいをしたりする事がなく、その食餌をも含めて生活全体を他でコントロールしやすい事である。又学童の栄養に関する研究も比較的多い。国家の義務教育をうけているすべての学

童は勿論、家にいる或は保育園や幼稚園に通っている百二十万の幼児にくらべれば社会の関心を喚起しやすいし、又研究対象としても一応聞きわけがあるし実施し易いと云う点がある。成人は勿論、国民構成の大部分を占めているのであるし、協力的な研究対象があらばかなり精密な研究が可能である。

結局、従来幼児に関する栄養の研究が非常に少いのは、栄養研究の対象として、この年代は研究者の或は社会の関心の旨点になっていたと云う事も一つ考えられる、又研究対象としての困難性があげられる。第一研究の重要性を子供に理解してもらおう云も不可能であるし、技投術的に、一日分の尿や糞をきれいに分けて、しかもこぼさぬように集めると云うようなごく基本的な事さえ、この自由にあちこちうごきまわる。小さな一人きりの君主国の王様や女王様には仲々協力してもらえない。又家庭ではこの年代の子供は何と云っても寵児である。両親や祖母父はこの小さな君主にはあまり面倒な事をさせたくない場合が多い、こうして幼児の栄養の研究をすすめ

る事は色々な意味において困難になっている。しかし、従来乳児や学童や成人についてなされた栄養の研究、さらに、動物を用いてなされた栄養研究は決して幼児栄養と無関係のものではなく、幼児栄養の究明に役立っている事は、勿論である。従ってこれからしばらく幼児の栄養に関する事をここへおのせてゆけれどもそれが他所からの借りものである事は少くない、しかしそれはそれなりに幼児に對しても真な場合である。栄養問題の中には幼児特有のものもある筈であり、之等については、更に研究を要するものが少くない、然し何れにしても、一応、幼児の栄養と云うものを中心にしてまとめてみたいと思う。

(愛育研究所)

~~~~~  
(28頁より続く) 保育所 保育所(沖繩の多くの人々は託児所といっている)は、私立保育所が少しあるだけであり、大体キリスト教団体によって維持されている。保育料は、那覇市における例をみると、キリスト教関係のものは一日B円で十円(日本円に換算すると三十円)で、他は一日B円で二十円(日本円で六十円)である。  
「児童福祉法」は、昭和二十八年に制定された。(完)

# 冬の室外保育

長谷川 増吉

妙高、南葉の山々の峯が真白になって、冬近い園の庭にたき火をかこんで子供達が三々伍々話し合っている。「お山に雪が来たよ」「うん。もうすぐ雪が降って来るよ。」「嬉しいなあ、雪が降ったらスキーに乗るんだ。」「僕はこんな大きな雪だるまを作るんだ。」子供達の冬への関心は大きい。冬はいやだと消極的に考えるのは大人で子供達は冬の生活に大きな期待を持っている。

早く十二月月上旬、おそい年で一月半ばかり降り始める雪は三月月上旬頃まで降りつづこうして冬の四ヶ月は雪に明け雪に暮れて太陽に恵まれない雪国の子供達、又戸外遊びを阻まれて経験領域の狭められる冬の園生活で幼児達が健康で明るい生活を送るため、どのような計画を立てるかということは、私共雪国の幼稚園にとって誠に重要な事である。

次に私たちの園の冬の保育計画の一端を述べてみたい。

## 十二月

お店こっこ、クリスマスと室内の仕事も多いこの月ではあるが、雪の来ない前の一日一日のお天気は実に尊い。晴れた日はつとめて

園外へ出ることにする。

(遠足) 帽子はかぶらずにお辨当を持って出かける。冬枯れの山の様子を観たり、山の動物や植物の冬ごもりの話等しながら、充分に日光に当るようにする。

(落葉たき) 広い裏庭の遊園、落葉をはき集めて落葉たきをするのもたのしいあそびの一つ。たき火をかこんで和やかに話合う、お部屋で話さない子もぼつぼつと口がほぐれる。皆でお庭をきれいにするという協力的な態度も培かわれて行く。

## 一月

雪が降らないとお正月らしくないという。一夜で野も山も埋めつくして時ならぬ花をさかせて一面の銀世界となる。子供達は嬉しくてたまらないとはしゃぎ廻る。「雪やこんこんあられやこんこん」と皆歌い出す。

園生活一月の後半は「楽しい雪あそびをしましょう」という単元に入る。雪が大きな誘導の役割を果してくれるので苦勞無しに子供達は教師の計画の中へ入ってくれる。

## (目標)

一、戸外で雪あそびをして寒さに負けず元気

で遊ぶ生活態度を養い、健康の増進を計る。

二、雪でいろいろと大きなものを作らせて、協同でする大製作の面白さを経験させる。

三、雪道の通園に危険のないよう安全に歩行する態度や能力を養う。

#### (雪道の通園)

雪の日の朝、子供達はマントに雪をがぶつて雪だるまのようになって登園する。

登園前に園の入口を巾広く雪道を踏んで置く。職員早番が交代で入口に立っていて、子供達を暖かく迎え、雪をはらってやる。

一、雪道や雁木を大勢横に並んで歩かない。

二、道のない所をわけて歩かないようにする。

三、そりのじゃまをなしないようにする。

四、雪道をすべったり、遊んで歩かない。等皆で約束して安全に楽しく通園出来るようにしている。

雪が晴れて、一面の銀世界、雪の反射でチカチカと目が痛い。室内に遊んでいる子供達もさそい出して全部が外の遊園へ出る。全身的な運動量の多い雪あそびである。全身が汗ば

む位暖かくなる。お入りの合図があるまで夢中で遊ぶ。

。外へ出て遊ぶ時は幼児達の一人一人の健康状態に注意する。

。ぬれたものをそのままにつけていないように注意する。

。雪あそびの後はしもやけにならないよう、手、足、目をよくまさつする。

。室の中と外の温度の差に注意して調節する。衣類の乾燥設備等も整えて健康管理に留意する。

次に雪とあそぶ幼児の経験の主なるものをあげてみると、

#### (雪つり)

糸の先に炭をつけて、ふわふわとふり立てのやわらかい雪をつつて遊ぶ雪つり、だんだんと雪がついて大きくなって行くので面白い。工夫して余念なく遊んでいる。

#### (雪の結晶)

チラチラと舞い落ちて来る雪を虫眼鏡でのぞき、雪の花を見る。黒のラシャ紙と虫めがねを用意する。雪の花に対しての神秘と驚きの中に観察への興味と態度が養われ科学する心を育てる。

(雪ふみ、雪のお山すべり、雪だるま作り、おままこと、植木やさん)

よいしょ、よいしょと新しい雪をふみしめている子供、こすきで一生懸命お山を作つてすべりっこする子供、雪だるまをころがして

行ってだんだん大きな球に作る。皆で力を合わせて雪だるまの胸が出来る。頭をのせて、炭

の目玉を入れて、口がついて、松葉のおひげ

がついて出来上り、誰かに似たようなかわい顔のだるまさん。先生がバケツの帽子をかぶせて皆でアハハと大笑い。「出来た出来た

だるまさんが出来た」と皆で歌う。

皆で作った大切なるだるまさん、こわさないようにしよう。

#### (スキー、そり遊び)

雪が三十糎も積ると「先生スキー持って来ても良い？」と聞く。

何と云ってもスキーは冬のアそびの王様だ。裏のスキー場は豆スキーヤーであふれる。園へ来ている子供でスキーを持っていな

い子供は無いと言つてよい位小さい時からはきならされているもの。

家から持って来て自由に滑らせているが勿論一斉に強制するようなことはしない。皆で

作ったお山で豆スキーに興じたり、裏の遊び場の傾斜を利用して滑らせているが、必ず教師が見守っていて、目の届かぬ所でさせぬように管理に充分気を配っている。

一組に十台ずつの園備えつけのスキーは、交代に仲よく使われている。

又、大型の雪そりが活躍する。お友達をのせて皆でひっぱって歩く。鈴がついていて、シャンシャンと走り廻って子供達を喜ばせている。

## 二月

二月に入ると雪あそびの経験領域も広まって、スケールが大きくなって来る。

### (雪合戦)

日本晴の空の下、綿雪をギュッキョッとふみしめて雪だまの投げ合い、勝負を主としないで元氣一ぱいあそぶ。体にぶっつけないように雪の城を作ってそれをめあてに投げるのも面白い。

### (雪まつり)

雪で人物、動物、お城、船等大きなものを作る。皆で協力して作る楽しさを味わう、遊びの中で幼児の創造性を培う所にこの遊びの良

さがある。充分に話し合いをして誘導しておいで入るようにする。教師が交友関係や、一人一人の子供の力を考えてグループを組むようにする。

丁度其頃、町で雪の芸術祭をやるので、大人の作品を見せてから入ると具合がよい。

(町の雪おろし風景、ラッセル車、ロウタリ車、雪かき自動車の活躍の様子を見る)

晴れた日等一組か二組ずつ交代に町の雪おろし風景を見せたり、駅へ連絡しておいで機会を見て、ラッセル、ロータリー車の活躍ぶりを見せる。

雪は私達をどんなに困らせているか。又人々は雪とこんな風に戦っている様子を子供達に理解させる。

## 三月

### (しみ渡り)

一しお寒気に明けた晴れた朝は、つもった雪の表面が固く氷る。朝の光を背に浴びて、ぎっしぎっしと一面の雪原の上を渡って歩く楽しさ、北極のペンギン鳥を思わせる。

### (雪けし、日向ぼっこ)

長い長い冬の自然は子供達にこのような経

験の数々を与えて三月で終止符を打つ。いとけるかと思つたこの雪も春三月の訪れと共に溶け始めて処々にあのみつかしい黒土色の地肌を見せて、青い青草の芽がのぞき始めたときの嬉しさ、南面している青田川堤にふきのとうがちよっぴり頭をもたげている解放的な春のよろこびは、雪国の冬を知るもののみよるこびである。

園の庭では子供達が毎日サクサクとシャベルの音を立てて雪消しに精を出す。又日向ぼっこに、おしくらまんじゅうに生活の車はまわりまわって行く。(新潟県高田幼稚園)

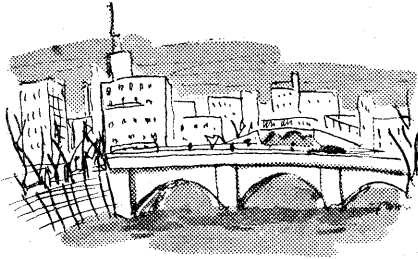
## 誤 正

本誌第五十四卷十二月号山下俊郎先生御執筆の「幼児用の机と椅子について」の文中、左記のような誤りがあります。たしので御訂正致します。

### 誤 正

- 2 頁上段八、九行目 　　そうならば　　—　　いうならば
  - 同十一行目 　　大きな　　—　　丈夫な
  - 3 頁下段一行目 　　害にも　　—　　高さにも
  - 同十二行目 　　次の　　—　　右の
  - 4 頁上段一行目 　　次の　　—　　右の
- なお第五十五卷一月号目次中、新庄よし子先生の名前が新床よし子となっており、御訂正致します。

# フレーベル以後の幼稚園



— < 6 > —

津 守 真

このフレーベル以後の幼稚園という小論を書き始めて、遅々と進まないうちに、しばらく中絶してしまった。それは、一つには、一体こういう古いことを書くことにどういう意義があるだろうかという半分自信のないところがあり、又一つには、この小論の骨になっているものが米国における幼稚園の発展の路であるということに、ためらいを感じたのであった。

しかしながら、私は幼稚園の発展してきた足跡に、なかなか離れ難い魅力を感じるのである。単に一つの組織の変遷を示す年代記のようなものならば、それは全く単調であり、記録として天井に積んでおけばよいものである。幼稚園の歴史の中にも、そういう類の資料は数多くあることだろう。それから又、幼稚園が単に小学校の学年が一つ下ったものとしてのだけの意味をもって発展してきたものであるならば、それはむしろ小学校の歴史の附加的な一部分として補足されればよいものであって、それこそ年代的な記事を一、二挙げれば足るものであろう。ところが幼稚園の発展の路は、そのような形式的なものではなくて、殊にその初期においては独自の意義をもって発達したのである。それは香気高いヒューマニズムに支えられた児童観と教育観の先駆として、幼稚園運動という社会的な運動として、多くの人々から支持されて来たものであった。その点において、幼稚園はいつまでも消える

ることの重要さがあると思う。

ことのない歴史的意義をもっている。ここに幼稚園のもつ大きな魅力がある。小学校という何となく形式的な教育を感じるときにも（もちろん、現代の小学校はそうでないはずのものであるが）幼稚園はもっと中の広い、全人間を対象とした豊かさを思わせてくれるのである。然らば、幼稚園は、現代にあって、どのような意義をもつものであろうか。それは幼稚園運動の初期の啓蒙時代のような華やかな意義をもつものではないだろう。小、中学校の教育も変化してきたし、学問も、社会も変化してきている。幼稚園はもはや、独自の意義を持ち難いであろうし、幼稚園の主張は幼稚園だけの主張ではなくなくなってきている。実はここにまた幼稚園の歴史の重要な意義があるだろう。そしてここに現代幼稚園と呼ばれるもの、それ自身反省せねばならぬ点があるのではなからうか。その当初の啓蒙時代に早くも、ピーボディ女史が、専ら読み書きを業としているクー女史の幼稚園を目して、幼稚園と称することは冒瀆である、何故他の名前をつけないのかと貶したように、幼稚園運動の初期においてすら、幼稚園という名が十分に理解されず、誤解されることがあったのである。（註一）現代の幼稚園が、自らを幼稚園と称することによって、何を意味するのかについて考慮が払われなければ、ク

ー女史の幼稚園と同じ誤謬を犯すことにならう。ここに幼稚園の歴史の発展の路を辿って、現代的意義を理解しようとする

幼稚園がヒューマニズム的児童観の先駆として啓蒙的な役割を果たしたことは、多かれ少なかれ、世界各国に共通のことであった。欧洲や南米の小国でも、その規模は小さくとも、フレーベルの路を承けた児童観の唱道者があって、そこから幼稚園運動が展開され、幼稚園が創られてゆく過程は、いづれも似たところがあるようである。これは極めて面白い事実である。

その中でも、米、日本、及び英国において、幼稚園の主張は最も活潑に展開され、幼稚園が最も広く普及したのである。中でも米、日本において、幼稚園の唱道したところは、最も純粹に、真直に伸び育った。米の風土が、新しい良きものの成長するのに適していたのであろう。フレーベルの幼稚園の欧洲における第一の唱道者であった、マレンホルツ・ビューロー夫人も、一八九三年その死の直前に、幼稚園運動を回顧して、フレーベルの幼稚園は、ヨーロッパにおいて既成の事実となり、アメリカにおいて勝利を博したと述懐しているように、米、日本における幼稚園運動は最もはばなく、又その後の発展も注目すべきものが多かったのである。そして、英国を始めヨーロッパ各国の幼稚園のその後の発展は、米、日本に極めて多くのものを負っている。

翻つて日本の幼稚園の発展の場合を考えてみても、フレール主義幼稚園の導入の最初に當つて、ドイツ人及びアメリカ人に多く負うており、その後多くの日本人の幼稚園運動の唱道者を輩出し、日本の事情に合わせて、幼稚園運動が徐々に進展したのである。その途上で、我が国でも幼稚園自身徐々にいろいろの変化を示してきたのであったが、その変化は必ずしも我が国の国内だけで行なわれたのではなく、米國における幼稚園の進展に多くのものを教えられ、刺戟されて変化してきたのであった。それらの事情を考えてみても、米國における幼稚園の発展の路を見ることは、幼稚園のことを考えるときに重要なものであるし、又、終戦後我が國の教育界において直訳的な珍らしい語が出てきても、それは幼稚園の実際においては大きく新らしいものでもなく、新らしいレッテルを貼られなくても事実上は以前から行なわれていたものであることを理解するのにも役立つものであるように思うのである。もちろん、外国の事情だけに通じて、我が國の情勢に關して無知であるならば愚かなことである。現実の問題について建設的な努力をするところからの意義ある歴史が創られてゆく。我々の努力がその方向に向つてゆかなければならない。けれども、同時に、過去の集積の上に現在我々の立っている位置を認識し、理解することが、我々の現在の努力を一層効ならしめるものであらう。

このように考えて、私はこの小論、フレール以後の幼稚園を更につづけてゆこうとするのである。我が國の幼稚園の発展については、倉橋惣三、新庄よしこ共著の日本幼稚園史その他があるし、それらを通して知ることができる。その日本の幼稚園の発展にいろいろの角度から影響を与え、現在も尚いろいろの方面から刺戟と影響を与えている米國の幼稚園の変化の路を見ることは、我々の発展の助けにもなるであらう。

更に、私が久しく疑念に感じていたことは、現在も尚フレールベルのことは屢々語られ、又時に過大評価と思われる程に影響をもつことがあるのに、フレールベルと現代との中間が不明瞭なことであった。一体フレールベルは現代とどのように結びついているのであらうか。フレールベルはどのようにして現在に至るのであらうか。その推移が明らかにされ、正しく評価されなければ、フレールベルが或いは過大評価され、或いは過小評価されることになってしまう。この点を明らかにするために、多少迂遠な箇所もあるが、始めから順序を出してみようと思つたのである。

### 第三章 幼稚園の学校教育への統合と教育論争

前章までに、幼稚園教育がいかにしてフレールベルの後継者達によつて唱道され、それが幼稚園運動として展開し、一般

社会から受け入れられるようになったかを見た。こうしてフレールベルの死後三十年を経ずして、フレールベルの幼稚園はその存在価値を認められ、普及していったのである。これは米  
国においても英国においても同様であって、大体一八八〇年  
までには、幼稚園の存在はもはや価値を疑うことのできない  
一つの事実となった。此のフレールベルの幼稚園を支えていた  
ものは、もちろん、フレールベルの教育理念と、彼の特殊な教  
育用具、恩物とであった。そして前章にも見たように、初期  
の幼稚園運動の指導者たちは、善い意味でも悪い意味でも、  
幼稚園を通してフレールベルの理念を実現するために努力し、

幼稚園をしてフレールベルの名にそむかないようにすることに  
努めてきたのであった。それらの人々の熱心にして真面目な  
努力によって始めて、幼稚園がそれほどまでに、幼稚園とし  
ての生命を保ち、その独自の性格を保つことができたのであ  
る。

そして教育全般の上にも影響力を持つことができたのであ  
る。

それとともに、その間に幼稚園自身の中に、その教育方法  
の変革を余儀なくされる地盤が醸成されていた。それはむしろ  
フレールベル自身の中に存在していた矛盾から必然的に起る  
ものであったのかもしれない。こうして十九世紀の終りは、  
幼稚園教育にとって非常に大きな転回の時期となったのであ

る。此の章では、この幼稚園自身の中に醸成された矛盾、そ  
して幼稚園教育の改革について見ようとするのであるが、そ  
れと時期的に殆ど相前後して、幼稚園教育への統合の動きが  
あらわれており、この問題について先ず簡単に見ておくこと  
が便利であるように思う。もちろん、幼稚園の学校教育への  
統合と、幼稚園の教育方法の改革とが、互いに原因結果とな  
るものではなく、ここではただ単に時代的に見てゆく上の便  
宜上であるにすぎない。

#### 公立幼稚園の発展

幼稚園の学校教育への統合は、行政的に学校教育系統に併  
合すること、教育内容上の幼稚園を公立学校教育の系統の  
中に融合しようという努力は、米国の幼稚園の発展の極めて  
初期にまで遡ることができる。その理由の一つは、初期にお  
いては幼稚園が個人的な篤志家の努力によって発展したので  
寄附や個人的な財産によって賄なわれることが多く、経済的  
に支えきれないというようなことがあったようである。そし  
てそのような人々が、こんなに有意義な機関を廃止するのは  
惜しいから、公的な補助を受けたいという希望があった。し  
かしこのような望みは結局叶えられなかった。

幼稚園を公的な学校教育の一環として併合しようとする動  
きの、更に大きな理由は、幼稚園教育が教育として価値があ



り、有意義なものであるならば、それは私的な機関として止まるべきものではなく、公的な機関としてとり上げられるべきであるという主張である。

幼稚園運動の先駆者である、エリザベス・ビーボディも、早くから公立の小学校の中に幼稚園を持つことを考えており一八七〇年に、ボストンの公立小学校の中に幼稚園を設立した。しかし数年を経ずして、中絶してしまった。また社会の認識も至らなかつたためである。

幼稚園も学校教育の一環として公立小学校の中に併設されるべきであると強く主張してその実現に努力したのは、ニューヨーク師範学校のトマス・ハンターであった。彼はフレイベルの思想と教育理論に強く共鳴していた。そして、「すべての小学校に幼稚園のクラスが併設されるべきである」(註二)ことを主張し、幼稚園教育に経験のある教師を備い、幼稚園の教材が購入されることを学校当局に要決した。一八七〇年に、ドイツ人、ドクター・デュアイと彼の娘が教師として備われ、幼稚園のクラスが始められた。しかしこの計画もまた失敗に終わった。その理由は、第一には、幼稚園が七才から十一才までの子どもの混合編成であり、フレイベルの恩物用具は、このような年長の子どもたちには単純すぎて不適當であった。第二には学校の教師達は、フレイベルの幼稚園教育を理解せず、遊ぶことを教える教育などを全く嘲笑していた。

そして第三にデュアイ父娘はドイツ人で英語を殆ど解しなかつたのである。この幼稚園クラスは、一八七四年に再開し、今度は米国人の教師によって、五才児のみを対象として、四年間続けられ、成功している。

こうして幼稚園運動の当初においては、公立小学校の一環としての幼稚園は、極めて微々たる歩みをつづけた。そしてこのような事情の下で、幼稚園を公立学校系統の一部として併合せようとするには、どうしても理解ある校長と、幼稚園教育担当者との間の緊密な協力が必要である。しかもいづれも、幼稚園教育の原理と方法とに通曉していなければならぬ。このような条件を充たしたのが、ウィリアム・ハリス(William T. Harris)とスザン・ブロー(Susan E. Blow)であった。そして彼らのセントルイスにおける公立幼稚園が最初の公立小学校併設の幼稚園として注目を浴びたのである。そしてそれが、所謂幼稚園教育としての全盛期を思わせるのである。

註一、 本誌 五十四卷 二号 昭和三十年

註二、 Hunter, T.: The Kindergarten in Normal Training, in Henry Bernard Ed. Kindergarten and Child Culture, 1881, p. 529—532

## 編集後記

保育の実際の運営の上で一番重要なことは何でしょうかとしばしば尋ねられる。実際家が重要だと思ふこと、直接実地にたずさわらない者の思ふこと、両親の考えることなどそれぞれ違ふだろう。

けれどもまた、そういう人たちみんなが一致してこの筋は外れたら困ると思ふこともあるだろう。この子どもを、ひとりひとりの子どもを、この私の子どもを、じゅうぶんに心身ともに発達させ、いろいろの面をのびるところまで伸ばしたいというところ、これは恐らく子どものことにとずさわる人々の共通の関心だろう。ところで、子どものひとりひりを十分に発達させるためには、——それは云うに易くして行なうに難いことであるが——それぞれの子どもの毎日毎日の生活、その子どもの中の生活の中で起つてゐるべきこと、日々伸びゆく子どもの経験してゐることがらを、できるだけじゅうぶんに知つていなければできないことだろう。この子どもは今日はこうだった。その次の日はこうだったと、一しよに生活してゐて始めて指導できることだろう。このこ

とから、保育の実際の運営の形は、それだけの保育室などの条件に合わせて、自然にきまつてくるものではないだろう。か。もしも、子どものある能力だけをとり上げて、それだけを教育しようとしたら、いくつかの側面をとり出して、いわゆる学校の教科別指導のようにならば、それは幼児の教育の上に甚だ無理のゆゑことになるだろう。そのときには少なくともひとりひとりの子どもの毎日発達してゆくものを教育するという連続性は忘れられ、個々の子どもの理解の上に立つた教育が失なわれてゆくという危険がないだろうか。また、自由保育、一斉保育という対立も、一貫した毎日の生活の中で子どもが最もよく発達してゆくことが重要なのであることを思えば、本質的な対立とはならないものである。それはむしろ他の物理的、組織的な条件とも関連するものであらう。ひとりひとりの子どもがいかにしたら最もよく発達するかというところが我々の共通の関心であることを、見失なわないようにしたいと思ふ。

林氏の「幼児の造形」四月号まで連載  
武藤氏の「幼児の栄養」も隔月位に連続する予定である。

## 幼児の教育 第五十五卷 第二号

定価金五十円

昭和三十一年一月二十五日印刷

昭和三十一年二月 一日発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真  
発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

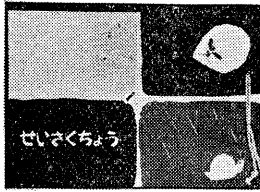
東京都千代田区神田小川町二ノ五

発行所 株式会社フレール館

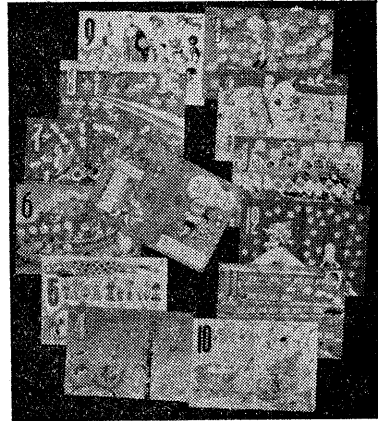
振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所フレール館にお願い致します。

# 新学期用品は定評のあるフレーベル館で!!

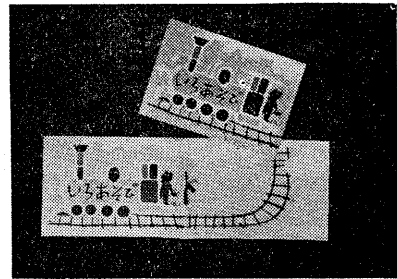


せいさくちょう



出席カード

昭和三十一年度の新学期用品が完成いたしました。昨年より一層よい出来栄だと、自負いたしております。童画界の重鎮武井武雄先生が一生懸命つくってくださった出席カード、美しく楽しい装幀のせいさくちょう・じゆうがちょう、内容を特に吟味したおりがみ・くれよんなど、いずれも幼児教育にはなくてはならないフレーベル館の新学期用品です。なお、右のほかに別記の通り、いろいろと取揃えてございます。お申込みは、フレーベル館または代理店へ!



いろあそび

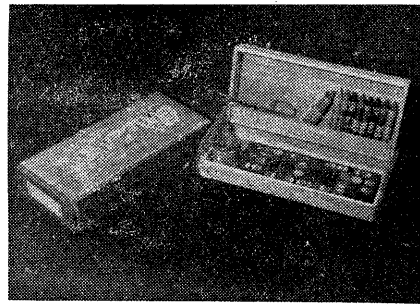
| 番号 | 品名          |
|----|-------------|
| 四七 | 園籍簿(用紙)     |
| 七二 | 出席簿(用紙)     |
| 四八 | 身体検査表(用紙)   |
| 四五 | 保育日誌A(用紙)   |
| 四六 | 保育日誌B(用紙)   |
| 四一 | 幼児指導要録(用紙)  |
| 五三 | 卒園台帳(用紙)    |
| 四三 | 児童票(用紙)     |
| 五六 | 保育証書大(A)    |
| 五四 | 保育証書大(B)    |
| 五七 | 保育証書小       |
| 六二 | 賞状(用紙A)     |
| 六三 | 賞状(用紙B)     |
| 五八 | 園児募集ポスター(A) |
| 五九 | 園児募集ポスター(B) |
| 六〇 | 園児募集ポスター(C) |
| 五〇 | 園のたより       |
| 五一 | つうえんブック     |

# 新学期用品は定評のあるフレーベル館で!!

| 番号     | 品名           |
|--------|--------------|
| 七五     | 綴込表紙         |
| 一〇一    | 出席カード        |
| 一〇三    | 出席カード用貼紙     |
| 五五     | 保育料袋         |
| 一一九    | せいさくちよう(大)   |
| 一一八    | せいさくちよう(小)   |
| 一一一    | ぬりえ(1)       |
| 一一二    | ぬりえ(2)       |
| 一二五(1) | じゆうがちよう(特1)  |
| 一二五(2) | じゆうがちよう(特2)  |
| 一二六    | じゆうがちよう(A)   |
| 一二七    | じゆうがちよう(B)   |
| 一二八    | じゆうがちよう(C)   |
| 一七〇    | たのしいおしごと(新版) |
| 一六七    | えあそび         |
| 一一三    | いろあそび        |
| 七四     | 出席ゴム印紙箱      |
| 七三     | 出席ゴム印木箱      |
| 一六〇    | はさみ          |



園児募集ポスター



まんてんくれよんとおどろぐばこ

| 番号  | 品名           |
|-----|--------------|
| 一五五 | まんてんくれよん 12色 |
| 一五六 | まんてんくれよん 10色 |
| 一五七 | まんてんくれよん 8色  |
| 一五八 | おどろぐばこ(木製並)  |
| 一五〇 | おどろぐばこ(木製特)  |
| 一五九 | おどろぐばこ(紙製)   |
| 一七一 | 札名別組(核型)     |
|     | 赤色           |
|     | 黄色           |
|     | 緑色           |
|     | 桃色           |
|     | 白色           |
|     | 藤色           |
|     | 水色           |
|     | 青色           |
|     | 橙色           |
| 一三一 | 紙(特製五寸)      |
| 一三二 | 紙(特製四寸)      |
| 一三三 | 紙(並製五寸)      |
| 一三四 | 紙(並製四寸)      |